



**PUBLIC (公開)**

SAP BusinessObjects Integration Option for Microsoft SharePoint software

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

# Integration option for Microsoft SharePoint スタ ートアップガイド

# 目次

<b>1</b>	<b>ドキュメント履歴.....</b>	<b>4</b>
<b>2</b>	<b>この情報の対象読者.....</b>	<b>5</b>
<b>3</b>	<b>はじめに.....</b>	<b>6</b>
3.1	Integration Option for SharePoint software の概要.....	6
3.2	BI プラットフォームリポジトリでのオブジェクトの整理.....	7
3.3	BI コンテンツで実行できるタスク.....	8
3.4	Integration Option for SharePoint へのログオン.....	10
3.5	BI プラットフォームからのログオフ.....	11
<b>4</b>	<b>SharePoint サイトの作成および変更.....</b>	<b>12</b>
4.1	SAP BusinessObjects の Web パーツ.....	12
	IOMS - コンテンツエクスプローラ.....	13
	IOMS - 検索結果の表示.....	17
	SharePoint サイトへの Web パーツの追加.....	17
4.2	SAP BusinessObjects サイト定義テンプレート.....	18
4.3	SharePoint サイトのブレッডクラム.....	20
	SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートのブレッডクラム.....	20
	IOMS - コンテンツエクスプローラのブレッডクラム.....	22
	グローバルブレッডクラム (SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010).....	23
<b>5</b>	<b>サイト基本設定の設定.....</b>	<b>24</b>
5.1	全般サイト基本設定の設定.....	24
5.2	Web Intelligence ドキュメント基本設定の設定.....	24
5.3	サイトのパスワードの変更.....	26
5.4	IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツのプロパティの編集.....	26
	IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの開始フォルダプロパティの編集.....	26
5.5	IOMS - 検索結果の表示 Web パーツのプロパティの編集.....	27
<b>6</b>	<b>オブジェクトの使用.....</b>	<b>28</b>
6.1	タイプ別のオブジェクトへのアクセス.....	29
6.2	オブジェクトの作成.....	29
	ハイパーリンクの作成.....	29
	パブリケーションの作成.....	30
	フォルダの作成.....	31
	Web Intelligence ドキュメントの作成.....	31
6.3	オブジェクトのプロパティの編集.....	32

6.4	フォルダまたはカテゴリの作成	32
	カテゴリへのオブジェクトの割り当て	33
6.5	BI プラットフォームリポジトリへのドキュメントの追加	33
6.6	オブジェクトの並べ替え	33
6.7	オブジェクトのコピー	34
6.8	オブジェクトの移動	34
6.9	オブジェクトの削除	35
6.10	オブジェクトへのショートカットの作成	35
6.11	OpenDocument リンクを使用したドキュメントのオープン	35
<b>7</b>	<b>オブジェクトのスケジュール</b>	<b>37</b>
7.1	オブジェクトのスケジュール	37
7.2	オブジェクトパッケージのスケジュール	38
7.3	パブリケーションの書式設定オプション	38
	Crystal レポートの書式設定オプション	40
7.4	パブリケーション出力先	46
	出力先オプション	52
7.5	パブリケーションのスケジュールオプション	58
	Crystal レポートのスケジュールオプション	61
	Web Intelligence ドキュメントのスケジュールオプション	66
	プログラムのスケジュールオプション	69
	オブジェクトパッケージのスケジュールオプション	70
<b>8</b>	<b>インスタンスの使用</b>	<b>74</b>
8.1	インスタンスの一時停止と再開	74
8.2	インスタンスの再スケジュール	74
8.3	インスタンスの置換	74
8.4	オブジェクトの最新のインスタンスの表示	75
8.5	インスタンスの削除	75
8.6	インスタンスの履歴の表示	76
8.7	オブジェクト、インスタンス、またはショートカットの送信	76
8.8	オブジェクトへのリンクの取得	77
8.9	レポートの貼り付け	77
	ビューアのプロパティを使用したレポートの貼り付け	78
	ビューアのツールバーを使用したレポートの貼り付け	78

# 1 ドキュメント履歴

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	<p>Integration Option for Microsoft SharePoint の場合、特定のコンテンツの Web パーツが非推奨になっています。非推奨のビューアは次のとおりです。</p> <p>IOMS - アナリティカルレポートビューア</p> <p>IOMS - Crystal レポートビューア</p> <p>IOMS - Xcelsius ビューア</p>

## 2 この情報の対象読者

このガイドは、integration option for SharePoint software の Web パーツを使用して、オブジェクトを操作するビジネスユーザを対象としています。

Integration option for SharePoint を使用する前に、ビジネスユーザは Microsoft SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010、および次のアプリケーションに慣れておく必要があります。

- SharePoint Foundation 2010 (SharePoint Server 2010 使用)、Windows SharePoint Services (WSS) 3.0 (Microsoft Office SharePoint Server (MOSS) 2007 使用)、または WSS 2.0 (SharePoint Portal Server 2003 使用)
- SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォーム

## 3 はじめに

### 3.1 Integration Option for SharePoint software の概要

Integration Option for SharePoint software を使用すると、Business Intelligence (BI) ソリューションと SharePoint ソフトウェアを連携させることができます。この統合オプションは、フリーダウンロードとして使用できます。

管理者が Integration option for SharePoint をサイトにデプロイしてから、チームサイトテンプレートを使用して BI コンテンツにアクセスするための専用サイトを作成します。

Integration option for SharePoint には SAP BusinessObjects Web パーツのギャラリーが用意されており、管理権限を持つユーザは、SharePoint サイトの Web パーツを設定できます。このため、すべての SharePoint サイトから、BI コンテンツオブジェクト (Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、パブリケーション、Xcelsius レポート、Advanced Analysis ドキュメント、PDF ドキュメント、Microsoft Excel スプレッドシート、Microsoft Word ファイル、プログラムファイル、オブジェクトパッケージ、その他のレポートなど) にアクセスしたり、これらを管理したりできます。

非推奨の Web パーツで利用可能な既存のサイトがある場合、想定される動作は以下のとおりです。

1. 非推奨の Web パーツは、既存のサイト (BI 4.2 から BI 4.3 にアップグレードする前に登録されたサイト) の Web パーツギャラリーに一覧表示されます。非推奨の Web パーツをサイトで使用すると、エラー/例外が発生します。
2. 既存のサイトに非推奨の Web パーツがある場合、アップグレード後にその Web パーツは機能せず、サイトが開かれたときにエラーがスローされます。

BI 4.2 から BI 4.3 へのアップグレード後に、新しいサイトを登録することをお奨めします。

#### ① 注記

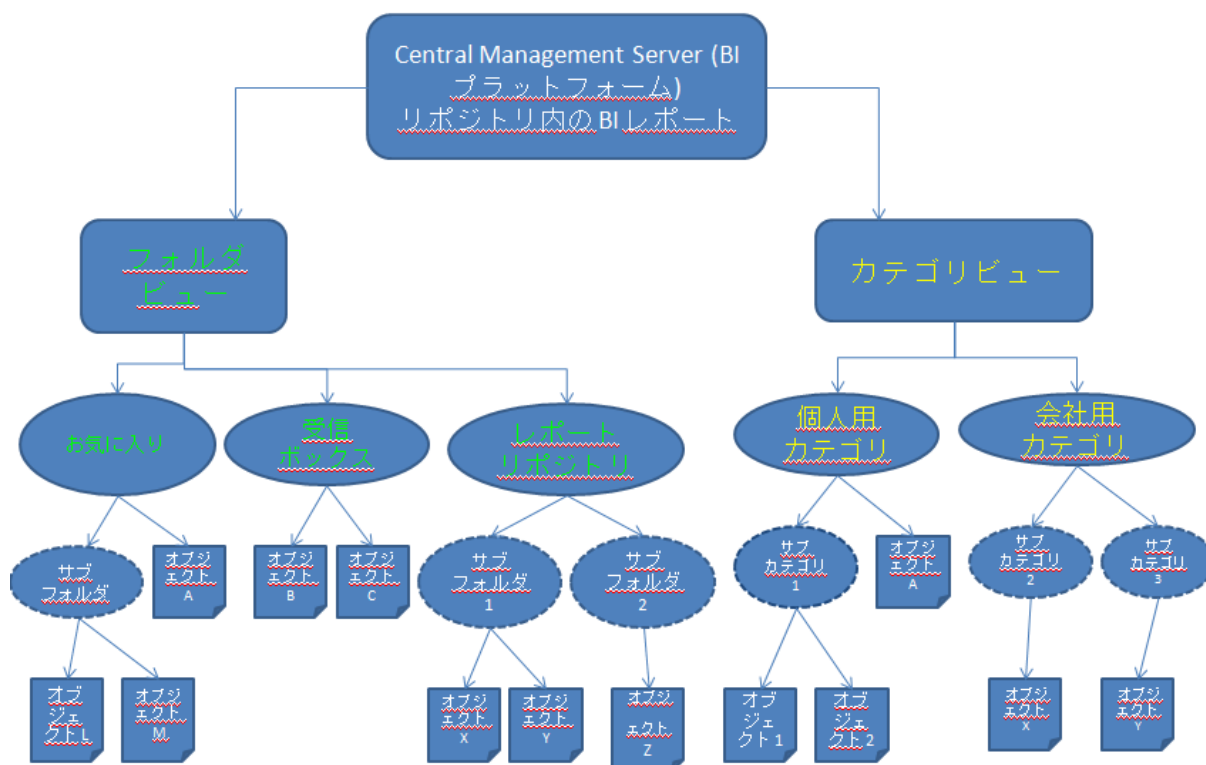
これで、Microsoft Sharepoint (IOMS) ドキュメントビューアの統合で任意のレポートにアクセスできるようになります。

Integration Option for Microsoft SharePoint の場合、特定のコンテンツ固有の Web パーツが非推奨になっています。非推奨のビューアは次のとおりです。

- IOMS - アナリティカルレポートビューア
- IOMS - Crystal レポートビューア
- IOMS - Xcelsius ビューア

## 3.2 BI プラットフォームリポジトリでのオブジェクトの整理

次の図に、Business Intelligence (BI) プラットフォームリポジトリではオブジェクトがどのように整理されるかを示します。



すべてフォルダは、BI プラットフォームリポジトリに存在するすべてのコンテンツを含むルートフォルダです。ルートフォルダには、フォルダビュー（デフォルトビュー）とカテゴリビューという2つのビューがあります。ファイルは1つのビューのみに表示されます（つまり、一方のビューのファイルは、もう一方のビューには表示されません）。

たとえば、図では、[レポートリポジトリ] フォルダの Obj X と Obj Y はフォルダビューにありますが、[会社用カテゴリ] フォルダにこれらが関連付けられているサブカテゴリがあります。そのため、Obj X と Obj Y はどちらのビューにも表示されます。[レポートリポジトリ フォルダの Obj Z には割り当てられたカテゴリがないため、カテゴリビューには表示されません。

フォルダビュー（デフォルト）

フォルダ	説明
お気に入り	個人用のオブジェクト一覧が表示されます。
受信ボックス	他の BI ユーザから受信したオブジェクト、他のユーザに送信したオブジェクト、および共有オブジェクトが表示されます。受信ボックスフォルダには、カテゴリやサブフォルダはありません。

フォルダ	説明
レポートリポジトリ	アクセスすることができる BI プラットフォームリポジトリのすべてのオブジェクトが含まれます。オブジェクトは、レポートリポジトリフォルダのサブフォルダのみに追加できます。
カテゴリビュー	
カテゴリ	説明
個人用	個人用情報または機密情報を含むオブジェクトに使用します。レポートを個人用カテゴリまたはそのサブカテゴリに割り当てると、そのレポートがカテゴリビューの個人用で使用できるようになります。
会社用	会社のすべてのビジネスユーザが利用可能な情報を含むオブジェクトに使用します。オブジェクトは、会社用カテゴリのサブカテゴリのみに追加できます。レポートを会社用のサブカテゴリに割り当てると、そのレポートがカテゴリビューの会社用で使用できるようになります。

### 3.3 BI コンテンツで実行できるタスク

タスク	説明
ドキュメントを移動する	<p>IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツを使用すると、フォルダを移動して、Central Management Server (CMS) リポジトリの Business Intelligence (BI) プラットフォームレポートにアクセスできます。</p> <p>ソフトウェア管理者が SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートを使用してサイトを作成した場合、IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツはホームページのお気に入りフォルダ、BI 受信ボックス、およびサイトのレポートリポジトリに表示されます。</p>



タスク	説明
ドキュメントを表示する	<p>ドキュメントのタイトルをダブルクリックすると、ドキュメントが表示されます。Integration option for SharePoint は、選択されたドキュメントを適切なビュー Web パーツで表示します。次のタイプのコンテンツを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Web Intelligence ドキュメント</li> <li>• Crystal レポート</li> <li>• Xcelsius ドキュメント</li> <li>• オブジェクトパッケージ</li> <li>• Analysis, edition for OLAP ドキュメント (初期のバージョンでは Advanced Analysis または Voyager)</li> <li>• Microsoft Word、Microsoft Excel、PDF などのサードパーティドキュメント</li> </ul>
ドキュメントを検索する	<p>SharePoint リポジトリまたは BI プラットフォームリポジトリにある、BI プラットフォームが管理するオブジェクトの内容を検索します。両リポジトリの検索条件に一致するドキュメントが、検索結果に含まれます。</p> <p>検索結果でオブジェクトタイプを選択して、プロジェクトに対するアクション (表示やスケジュールなど) を実行できます。</p>
オブジェクトおよびインスタンスをスケジュールする	<p>オブジェクトをスケジュールすると、オブジェクトのレポートが作成され、表示、印刷、および配布の最新情報が提供されます。オブジェクトが実行されるたびに、その時点でのユニバースから取得されたデータを反映してレポートインスタンスが作成されます。スケジュールしたオブジェクトの履歴を表示して、すべての既存のインスタンスを表示することができます。</p>
基本設定を管理する	<p>基本設定の値では、次の機能を管理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• BI レポートの表示</li> <li>• オブジェクトタイプの表示</li> <li>• Web ページの表示言語</li> <li>• 日付、時刻、および数値の形式規則</li> <li>• Web ページのタイムゾーン (選択したタイムゾーンに依存するスケジュールなどのアクティビティ)</li> </ul>
公開する	<p>レポートを公開すると、ユーザはそのインスタンスを使用できるようになります。ドキュメントは複数の形式および宛先に公開することができ、カスタマイズした処理拡張機能、動的受信者、および配信ルールを使用して、特定の受信者用に調整できます。たとえば、パブリケーションをスケジュールして特定の間隔で実行し、受信者の BI 受信ボックスや電子メールアドレスなどの複数の宛先に送信します。</p>

タスク	説明
情報を共有する	BI 受信ボックスやファイルの場所に、レポートを電子メールで送信したり、FTP を介してドキュメントリンクを送信することで、他の BI プラットフォームユーザとレポートを共有します。
他のビジネスユーザと連携する	オブジェクトに関連付けられているメモに、レポートやオブジェクトに関するコメントを投稿します。他の BI プラットフォームユーザは、このコメントを表示して、返信することができます。

## 3.4 Integration Option for SharePoint へのログイン

Business Intelligence (BI) プラットフォームの Central Management Server (CMS) リポジトリで BI コンテンツにアクセスする前に、Integration Option for SharePoint software にログインする必要があります。

Integration Option for SharePoint にログインする前に次の操作を実行します。

- 有効なブラウザ (Microsoft Internet Explorer バージョン 7、8、9 か、Mozilla Firefox バージョン 3.5 または 4.0 のいずれか) がマシンにインストールされていることを確認します。
  - Microsoft Internet Explorer では、SAP BusinessObjects サイトの URL を信頼済みサイトに追加します ( [ツール](#) > [インターネットオプション](#) > [セキュリティ](#) タブ)。
- Web ブラウザに、管理者によって作成された Integration Option for SharePoint サイトの URL を入力します。  
URL が分からない場合は、管理者に問い合わせてください。  
管理者がユーザのデプロイメント用にシングルサインオン (SSO) を設定している場合は、自動的にログインし、ログインダイアログボックスの代わりに SAP BusinessObjects サイトのホームページが表示されます。
  - [SAP BusinessObjects へのログインダイアログボックスのシステムボックス](#)で、BI プラットフォームを実行する CMS の IP アドレスとポートを入力します。  
管理者が Integration Option for SharePoint software で CMS 名を設定している場合は、その名前がデフォルトで [システム](#) ボックスに表示されます。必要な場合は、別の IP アドレスとポートを入力できます。  
たとえば、**10.193.4.165:6400** と入力します。
  - [ユーザ名](#) ボックスと [パスワード](#) ボックスに、認証情報を入力します。
  - [\[認証\]](#) 一覧で、管理者がサイトに設定した認証タイプを選択します。

オプション	説明
<a href="#">Enterprise</a>	(デフォルト) Enterprise 認証では、BI プラットフォームによって認識されるユーザ名およびパスワードが必要です。
<a href="#">LDAP</a>	LDAP 認証では、LDAP ディレクトリサーバによって認識されるユーザ名およびパスワードが必要です。この認証タイプは、管理者によって設定済みの場合にのみ使用できます。

**Windows AD** Windows AD 認証では、Windows AD によって認識されるユーザ名およびパスワードが必要です。この認証タイプは、管理者によって設定済みの場合にのみ使用できます。

---

[**認証**] ボックスは、管理者によって認証用のソフトウェアが設定済みの場合にのみ使用できます。

5. [**ログオン**] をクリックします。

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートのホームページに、埋め込み Web パーツが表示されます。

## 3.5 BI プラットフォームからのログオフ

Business Intelligence (BI) プラットフォームコンテンツでの作業を終えたら、プラットフォームからログオフしてセッションを終了する必要があります。

<YourLogonName> をクリックして、**My SAP BusinessObjects ログオフ**を選択します。

BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) から切断されます。

## 4 SharePoint サイトの作成および変更

### 4.1 SAP BusinessObjects の Web パーツ

Web パーツは、Web ページでコンテンツを表示することができる情報のモジュール単位です。Web パーツを使用して、SharePoint サイトの Web ページの内容、外観、および動作をカスタマイズします。

Integration option for SharePoint には、SharePoint の Web パーツの他に、9 つの SAP BusinessObjects の Web パーツが含まれます。SAP BusinessObjects の Web パーツは SharePoint サイト用に設定でき、SharePoint の Web パーツは SAP BusinessObjects サイト定義テンプレート用に設定できます。

管理者権限があるユーザは、SharePoint サイトページに Web パーツを追加できます。たとえば、次のアクションを有効にするためにサイトに Web パーツを追加できます。

- プロパティの設定
- ドキュメントの保存と追跡
- 複数のソースのコンテンツの表示
- ビジネスデータの表示
- ビジネスレポートの共有
- SharePoint サイトの既存のリストおよびライブラリの情報の表示

Business Intelligence (BI) オブジェクトのアクセス、表示、整理、および操作を行うためには、SharePoint に次の Web パーツを追加する必要があります。

Web パーツ	説明
IOMS - アドバタイズメント	企業イメージのバナー、テキスト、リンクなどの製品の広告を表示します。
(必須) IOMS - コンテンツエクスプローラ	BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) でのドキュメントの参照、フォルダおよびカテゴリの移動、コンテンツへのアクセスができます。  サイトを SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートを使用して作成した場合、この Web パーツはサイトで、[ホーム] ページの <a href="#">[お気に入り]</a> 、受信ボックスページの <a href="#">[受信ボックス]</a> 、レポートリポジトリページの <a href="#">[レポートリポジトリ]</a> として表示されます。
IOMS 最近の表示	SAP BusinessObjects サイトで最近表示したドキュメントを 5 つ表示します。ドキュメントをクリックして、そのドキュメントタイプのデフォルトのビューアで開くことができます。

Web パーツ	説明
IOMS 最近の検索	SAP BusinessObjects サイトで最近実行した検索を 5 つ表示します。検索をクリックして、その結果を IOMS - 検索結果の表示 Web パーツで表示できます。
IOMS - 検索結果の表示	SAP BusinessObjects サイト検索の検索結果を表示します。この検索では、BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) リポジトリのドキュメントおよびレポートを検出します。
IOMS - ドキュメントビューア	Word、Excel、PDF などのサードパーティドキュメントを SharePoint サイトで表示できます。たとえば、PDF ファイルを開いたときに、IOMS - ドキュメントビューア Web パーツで Adobe Acrobat Reader が開かれます。  管理者がこの Web パーツをサイトのプライマリビューアとして設定していた場合、デフォルトでは、すべてのサードパーティドキュメントがこの Web パーツで開かれます。この Web パーツがプライマリビューアとして設定されていない場合は、サードパーティドキュメントは新しいブラウザウィンドウで開かれます。

## 4.1.1 IOMS - コンテンツエクスプローラ

IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツには、次のコンポーネントがあります。

- 一覧パネル: Business Intelligence (BI) プラットフォームのオブジェクトを表示
- ツールバー: SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 の [[SAP BusinessObjects](#)] メニュー

### 一覧パネル

一覧パネルの列には、BI プラットフォームリポジトリ内のオブジェクトのプロパティが表示されます。これらの列は SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートによって自動的に挿入されますが、Web パーツのプロパティを変更することで列をカスタマイズできます。

一覧パネルの列	説明
<a href="#">タイプ</a>	ドキュメントタイプを表すアイコン
<a href="#">タイトル</a>	ファイルまたはドキュメントの名前

一覧パネルの列	説明
最終実行日時	最終実行時のタイムスタンプ (オブジェクトをスケジュールできる場合)
所有者	ドキュメントの所有者
インスタンス	成功が失敗かに関わらず、オブジェクトをスケジュールした回数
タイプの内容	PDF、Word などのドキュメントの形式

## ツールバー

必要な場合は、Web パーツのプロパティを変更することで、SharePoint に IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーを追加できます。オブジェクトでアクションを実行するには、オブジェクトの横のチェックボックスを選択して、ツールバーボタンをクリックします。

ツールバーボタン	説明
新規作成	新しいオブジェクト (ハイパーリンク、パブリケーション、Web Intelligence ドキュメント、フォルダなど) を作成します
アップロード	ローカルドキュメントなどの新しいファイルを、ディレクトリ構造の任意の場所にアップロードします
アクション	オブジェクトで整理 (ショートカットの切り取り、コピー、貼り付け、削除、作成など)、送信、プロパティの表示、カテゴリの割り当て、スケジュール、ディスカッションなどのアクションを実行します
表示	[フォルダビュー (デフォルト)] と [カテゴリビュー] を切り替えます

IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーには、オフにしない限り、デフォルトで表示モード一覧が表示されます。

## SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 の [SAP BusinessObjects] メニュー

SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 では、integration option for SharePoint にツールバーの代わりに [SAP BusinessObjects] メニューがあります。メニューとツールバーでは、同じボタンを使用できます。

## 4.1.1.1 IOMS-コンテンツエクスプローラのプロパティ

IOMS-コンテンツエクスプローラのプロパティは、設定したページにのみ適用されます (サイトのすべてのページには適用されません)。

IOMS-コンテンツエクスプローラのプロパティ	説明
列の表示	<p>IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツで表示するには、列のこのチェックボックスを選択します。使用できる列は、現在のページやビューによって異なります。ビューに適用されていない場合、選択していてもその他の列は無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [お気に入り] ページでは、[ファイルの説明]、[インスタンス]、[最終実行日時]、[所有者]、および [タイプの説明] 列を表示できます。</li><li>• [レポートリポジトリ] ページでは、[ファイルの説明]、[インスタンス]、[最終実行日時]、[所有者]、および [タイプの説明] 列を表示できます。</li><li>• [受信ボックス] ページでは、[ファイルの説明]、[差出人]、[最終実行日時]、[所有者]、[送信日時]、および [タイプの説明] 列を表示できます。</li></ul> <p>[ドキュメントナビゲーション基本設定] プロパティは、[受信ボックス] ページには適用されません。</p>
ドキュメントナビゲーション基本設定	<p>[表示 (選択ビュー)] または [表示しない] を選択すると、IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーの [表示] 一覧が表示または非表示になります。この一覧を使用して、一覧パネルのフォルダビューとカテゴリビューを切り替えます。</p> <p>[表示 (選択ビュー)] がデフォルトの設定です。</p>
ページあたりの行数	<p>1 ～ 15 の間の数字を入力して、IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツに表示するページあたりのデフォルトの行数を指定します。Web パーツにより多くの行を表示する場合は、デフォルト数を変更します。</p>
開始フォルダ	<p>ページにアクセスするたびに IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツに内容を表示するフォルダを入力します。他のファイルやフォルダは表示されません。</p>
ツールバーを表示	<p>(SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010) メニューに加えて、IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーを表示する場合に、このチェックボックスを選択します。</p>

## 4.1.1.1 IOMS-コンテンツエクスプローラのプロパティ

IOMS-コンテンツエクスプローラのプロパティは、設定したページにのみ適用されます (サイトのすべてのページには適用されません)。

IOMS-コンテンツエクスプローラのプロパティ	説明
列の表示	<p>IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツで表示するには、列のこのチェックボックスを選択します。使用できる列は、現在のページやビューによって異なります。ビューに適用されていない場合、選択していてもその他の列は無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [お気に入り] ページでは、[ファイルの説明]、[インスタンス]、[最終実行日時]、[所有者]、および [タイプの説明] 列を表示できます。</li><li>• [レポートリポジトリ] ページでは、[ファイルの説明]、[インスタンス]、[最終実行日時]、[所有者]、および [タイプの説明] 列を表示できます。</li><li>• [受信ボックス] ページでは、[ファイルの説明]、[差出人]、[最終実行日時]、[所有者]、[送信日時]、および [タイプの説明] 列を表示できます。</li></ul> <p>[ドキュメントナビゲーション基本設定] プロパティは、[受信ボックス] ページには適用されません。</p>
ドキュメントナビゲーション基本設定	<p>[表示 (選択ビュー)] または [表示しない] を選択すると、IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーの [表示] 一覧が表示または非表示になります。この一覧を使用して、一覧パネルのフォルダビューとカテゴリビューを切り替えます。</p> <p>[表示 (選択ビュー)] がデフォルトの設定です。</p>
ページあたりの行数	<p>1 ～ 15 の間の数字を入力して、IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツに表示するページあたりのデフォルトの行数を指定します。Web パーツにより多くの行を表示する場合は、デフォルト数を変更します。</p>
開始フォルダ	<p>ページにアクセスするたびに IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツに内容を表示するフォルダを入力します。他のファイルやフォルダは表示されません。</p>
ツールバーを表示	<p>(SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010) メニューに加えて、IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーを表示する場合に、このチェックボックスを選択します。</p>



## 4.1.2 IOMS - 検索結果の表示

SharePoint で SAP BusinessObjects サイトを検索すると、検索エンジンによって Business Intelligence (BI) プラットフォームリポジトリが検索され、IOMS - 検索結果の表示 Web パーツに結果が表示されます。

検索機能	説明
入力した検索語句で結果を強調表示する	たとえば、検索語句に "sales" が含まれる場合、検索結果の各レポートで "sales" という単語が黄色で強調表示されます。
結果へのファイルパスを結果に表示する	検索結果またはレポートの親フォルダをクリックして、[レポートリポジトリ] ページを表示します。このページではファイルやフォルダにアクセスできます。
検索結果に簡単に移動する	<p>検索結果の各ページの上部に、ページ &lt;x&gt;/&lt;n&gt; としてページ番号が表示されます。&lt;x&gt; は現在のページ、&lt;n&gt; はページの合計数です。IOMS - 検索結果の表示 Web パーツのプロパティによって、ページあたりに表示する結果数が決まります。</p> <p>検索結果をクリックすると、新しいブラウザウィンドウでレポートが開かれます。デフォルトのビューア Web パーツ (IOMS - ドキュメントビューアなど) でレポートを開いて表示することができます。また、検索語句が最初に出現するレポートのページが開かれます。検索エンジンは、"XYZ company" がレポートの 8 ページに出現することを認識しているので、レポートの 8 ページが開かれます。</p>
検索エンジンが次の条件で提案を作成する 次の条件で検索できます #<suggestion>#	<p>提案された語句をクリックすると、検索エンジンによってその語句が検索され、検索結果が更新されます。</p> <p>元の語句では使用できる結果がなくても提案語句の結果が使用できる場合は、検索エンジンによって提案語句が使用され、「次の条件で検索できます #&lt;suggestion&gt;#。&lt;n&gt; 個のうち上位 &lt;x&gt; 個の結果が表示されています」というメッセージが表示されます。</p>

## 4.1.3 SharePoint サイトへの Web パーツの追加

Web パーツを SharePoint サイトに追加するには、管理者権限が必要です。

SharePoint で Web パーツギャラリーを開いて、追加する Web パーツを選択します。

## 4.2 SAP BusinessObjects サイト定義テンプレート

管理者は SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートを使用して、専用サイトを作成します。専用サイトでは、ユーザが SharePoint software の Business Intelligence (BI) プラットフォームコンテンツを表示、管理し、これらと対話することができます。

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートには、各種の Web ページ、5 つの Web パーツ、およびブレイドクラムが含まれます。テンプレートの Web ページは、Web ページというモジュール単位の情報で構成されます。

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートの機能		説明
Web ページ	ホーム	サイトにログインすると表示されるデフォルトのページを表示します。このページには、製品の広告、個人用のレポート一覧、最近表示したドキュメントの一覧、および最近の検索の一覧が含まれます。
	受信ボックス	他のユーザと共有しているレポートを表示します
	レポートリポジトリ	アクセス権のあるすべてのレポートを表示します
	ヘルプ	Integration Option for SharePoint ヘルプを表示します
	ユーザー設定	サイトの BI プラットフォームオプションをパーソナライズできるページを表示します
	検索結果の表示	コンテンツの検索や検索結果の表示ができるページを表示します

	ユーザアクション	Central Management Server (CMS) リポジトリの BI コンテンツと対話できるページを表示します。たとえば、他のユーザへのファイルの送信、オブジェクトのスケジュール、オブジェクト履歴の表示、オブジェクトプロパティの設定、オブジェクトについての他のユーザとのディスカッション、新しいドキュメントのアップロード、またはハイパーリンク、パブリケーション、および Web Intelligence ドキュメントの作成ができます。
Web パーツ	IOMS - アドバタイズメント	サイトのホームページに表示される製品の広告を追加します
	IOMS 最近の表示	サイトのホームページにドキュメントの <a href="#">最近の表示</a> 一覧を追加します。
	IOMS 最近の検索	サイトのホームページに <a href="#">最近の検索</a> 一覧を追加します。
	IOMS - コンテンツエクスプローラ	サイトのホームページに <a href="#">お気に入り</a> 、 <a href="#">受信ボックス</a> ページに <a href="#">受信ボックス</a> 、 <a href="#">レポートリポジトリ</a> ページに <a href="#">レポートリポジトリ</a> を追加します。この Web パーツを使用すると、BI プラットフォームのコンテンツにアクセスしたり、参照したりすることができます。
	IOMS - 検索結果の表示	<a href="#">[検索結果の表示]</a> ページをサイトに追加します。この Web パーツを使用すると、検索結果を表示して、アクションを実行できます。

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートの機能	説明
ブレッドキラム	サイトでのナビゲーションパスを追跡します。ブレッドキラムは、[ログオン] ページと [ヘルプ] ページを除く、各 Web ページの上部に表示されます。

ホームページ、受信ボックスページ、レポートリポジトリページ、およびヘルプページは、テンプレートの左側に表示されます。テンプレートの他のページにアクセスするには、特定のアクションを実行する必要があります。

#### ① 注記

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートで作成したサイト間を移動するのに、Web ブラウザの戻るボタンを使用しないでください。

## 4.3 SharePoint サイトのブレッドキラム

ブレッドキラムに、Web ページへのナビゲーションパスを表示します。ブレッドキラムは、SAP BusinessObjects サイトの各ページ上部に表示され、ファイルやフォルダの参照時やアクション実行時に、サイトでの位置を追跡するのに役立ちます。

ブレッドキラムは、SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートまたは SharePoint サイトテンプレートと、SAP BusinessObjects Web パーツで作成したサイトで使用できます。

ブレッドキラムに表示されるすべてのフォルダやカテゴリに移動できます。たとえば、ブレッドキラムが「<サイト名> >すべて > レポートリポジトリ > Revenues > California > LA > PizzaHut」であるレポートリポジトリページでレポートを表示している場合、このブレッドキラムの *Revenues* をクリックすることで Revenues フォルダに移動できます。ビューが最新更新され、IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツに Revenues フォルダの内容が表示されます。

### 4.3.1 SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートのブレッドキラム

ブレッドキラムのロケーション	ブレッドキラムの動作
IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツを含むページ	IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツのリストパネルでファイルまたはフォルダをクリックすると、ブレッドキラムが最新表示され、「<YourSiteName> > <Folder/CategoryPath>」のようなナビゲーションパスが表示されます。

[ユーザーアクション] ページ

このページは、次のアクションを実行すると表示されます。

- オブジェクトのスケジュール
- オブジェクトの履歴の表示
- オブジェクトのプロパティの設定
- オブジェクトへのカテゴリの割り当て
- カテゴリまたはフォルダの追加
- 電子メール メッセージを介した、FTP あるいはファイルの場所、または SAP BusinessObjects 受信ボックスへのオブジェクトの送信

ブレッドクラムには、[▶ <YourSiteName> ▶ <Folder/CategoryPath> ▶ <FileName> ▶ <YourAction> ▶](#) のようなナビゲーションパスが表示されます。

たとえば、My BusinessObjects という名前のサイトの [レポートリポジトリ] ページにある Statistics フォルダで "Profits\_Q1.Webi" という名前のレポートする場合、ブレッドクラムは [▶ My BusinessObjects ▶ すべて ▶ レポートリポジトリ ▶ 統計 ▶ Profits\\_Q1 ▶ スケジュール ▶](#) のようになります。

[検索結果] ページのレポートやオブジェクトに対してアクションを実行する場合

検索結果に対してアクションを実行すると、[ユーザーアクション] ページが表示されます。ブレッドクラムには、[▶ <YourSiteName> ▶ 検索結果 ▶ <FileName> ▶ <YourAction> ▶](#) のようなナビゲーションパスが表示されます。

たとえば、"Sales\_Q4\_2012" を検索し、検索結果で [Sales\_2010.Webi] を選択してこのレポートをスケジュールすると、[ユーザーアクション] ページが表示されます。サイトの名前が My Business Portal である場合、ブレッドクラムは [▶ My Business Portal ▶ 検索結果 ▶ Sales\\_2012 ▶ スケジュール ▶](#) となります。

これらの例は、SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint Server 2010 を想定しています。SharePoint 2007 を使用している場合、ブレッドクラムのルートは SharePoint Web ポータル ホームページとなり、ブレッドクラムには以下のようなナビゲーションパスが表示されます。

- IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツ: [▶ <home> ▶ <YourSiteName> ▶ <Folder/CategoryPath> ▶](#)
- [ユーザーアクション] ページ: [▶ <home> ▶ <YourSiteName> ▶ <Folder/CategoryPath> ▶ <FileName> ▶ <YourAction> ▶](#)
- [検索結果] ページのレポートやオブジェクトに対してアクションを実行する場合: [▶ <home> ▶ <YourSiteName> ▶ 検索結果 ▶ <FileName> ▶ <YourAction> ▶](#)

## 4.3.2 IOMS - コンテンツエクスプローラのブレッডクラム

IOMS - コンテンツエクスプローラのブレッডクラムを使用して、現在のビューからファイルディレクトリ、フォルダビュー、またはカテゴリビューの任意の場所に移動します。

### ブレッডクラムのフォルダビュー

フォルダビューでは、ブレッডクラムは **▶ <サイト名> ▶ すべて ▶ <子フォルダ> ▶ <サブフォルダ> ▶** のように表示されます。IOMS - コンテンツエクスプローラのフォルダビューでブレッডクラムの **すべて** をクリックすると、お気に入り、受信ボックス、レポートリポジトリの3つのフォルダにアクセスできます。

親 (ルート) フォルダ	子フォルダ	子フォルダの内容の表示位置	ブレッডクラムの例
すべて	お気に入り	SAP BusinessObjects サイト 定義テンプレートのホームページ	MyBusinessSite という名前のサイトのホームページの <b>お気に入り</b> の Profits_FY2013 フォルダの場合:  ▶ MyBusinessSite ▶ <b>すべて</b> ▶ <b>お気に入り</b> ▶ Profits_FY2013 ▶
すべて	受信ボックス	SAP BusinessObjects サイト 定義テンプレートの <b>受信ボックス</b> ページ 受信ボックスにはカテゴリやフォルダはありません。	MyBusinessSite という名前のサイトの <b>受信ボックス</b> ページの場合:  ▶ MyBusinessSite ▶ <b>すべて</b> ▶ <b>受信ボックス</b> ▶
すべて	レポートリポジトリ	SAP BusinessObjects サイト 定義テンプレートの <b>レポートリポジトリ</b> ページ	MyBusinessSite という名前のサイトの <b>レポートリポジトリ</b> ページの IOMS - コンテンツエクスプローラの Sales_2012_Forecast フォルダの場合:  ▶ MyBusinessSite ▶ <b>すべて</b> ▶ <b>レポートリポジトリ</b> ▶ Sales_2012_Forecast ▶


## ブレッドキラムのカテゴリビュー

カテゴリビューでは、ブレッドキラムは **▶ <サイト名> ▶ すべて ▶ <会社用/個人用カテゴリ> ▶ <子カテゴリ> ▶ <サブカテゴリ> ▶** のように表示されます。IOMS - コンテンツエクスプローラのカテゴリビューでブレッドキラムの **すべて** をクリックすると、**個人用** と **会社用** の2つのカテゴリにアクセスできます。

親 (ルート) カテゴリ	子カテゴリ	子カテゴリの内容の表示位置	ブレッドキラムの例
<a href="#">すべて</a>	<a href="#">個人用</a>	SAP BusinessObjects サイト 定義テンプレートのホームペ ージのお気に入り	MyBusinessSite という名前 のサイトのホームページで IOMS - コンテンツエクス プローラの <a href="#">My Data</a> カテゴリを クリックした場合:  <b>▶ MyBusinessSite ▶ すべて ▶ &lt;個人用カテゴリ&gt; ▶ My Data ▶</b>
<a href="#">すべて</a>	<a href="#">会社用</a>	SAP BusinessObjects サイト 定義テンプレートの <b>レポート リポジット</b> ページ	MyBusinessSite という名前 のサイトの <b>レポートリポジット</b> ページで IOMS - コンテン ツエクスプローラの <a href="#">Sales_2011_Forecast</a> カテゴリ をクリックした場合:  <b>▶ MyBusinessSite ▶ すべて ▶ &lt;会社用カテゴリ&gt; ▶ Sales_2011_Forecast ▶</b>

### 4.3.3 グローバルブレッドキラム (SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010)

SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 では、通常のブレッドキラムだけでなく、グロー  
バルブレッドキラムが SAP BusinessObjects サイトページの上部に表示されます。

タブの横にある  アイコンをクリックすると、グローバルブレッドキラムにアクセスできます。

サイトページのデフォルトの [SAP BusinessObjects](#) タブでは、IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの  
上に、通常のブレッドキラムを非表示にするメニューが表示されます。この場合、グローバルブレッドキラムが、  
表示される唯一のナビゲーションパスになります。

## 5 サイト基本設定の設定

### 5.1 全般サイト基本設定の設定

サイト基本設定を使用すると、Integration option for SharePoint にログインした後に表示されるページの外観をカスタマイズできます。

たとえば、タイムゾーンはスケジュールしたオブジェクトの処理時に決定されるため、オブジェクトをスケジュールする前にタイムゾーンを設定する必要があります。

#### ① 注記

一部のデプロイメントでは、Business Intelligence (BI) プラットフォーム管理者がすでにシステムのサイト基本設定を設定していることがあります。

1. Integration Option for Microsoft SharePoint にログインします。
2. ページ上部で<ログイン名>をクリックして、表示されるメニューから [My SAP BusinessObjects 設定](#) を選択します。  
新しいウィンドウに [ユーザ設定] ページが表示されます。
3. [全般] の [製品ロケール] リストで、ソフトウェアで使用する言語を選択します。
4. [現在のタイムゾーン](#) リストで、ソフトウェアで使用するタイムゾーンを選択します。  
タイムゾーンは、Business Intelligence (BI) プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、各ユーザが接続する Central Management Server (CMS) マシンのローカルタイムゾーンではありません。
5. [優先表示ロケール] リストで Business Intelligence (BI) コンテンツを表示するロケールを選択して、[OK] をクリックします。  
優先表示ロケールによって、日付、時刻、および数値の書式設定規則が決定されます。

### 5.2 Web Intelligence ドキュメント基本設定の設定

Web Intelligence ドキュメントにアクセスする前に、ドキュメントの表示の基本設定を設定する必要があります。

Web Intelligence ドキュメントの基本設定を設定する前に、次の点を確認します。

- Web Intelligence ライセンスが必要です。ライセンスについては、営業担当者に問い合わせてください。
- ドリルセッション中にフィルタを適用するには、管理者権限が必要です。

ドリルオプションのビジネス例と、Web Intelligence ドキュメントのドリルの詳細については、[SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイド](#) を参照してください。

1. Integration Option for Microsoft SharePoint にログインします。
2. ページ上部で<ログイン名>をクリックして、表示されるメニューから [My SAP BusinessObjects 設定](#) を選択します。



新しいウィンドウに [基本設定] ページが表示されます。

3. [Web Intelligence] の下の [デフォルトの表示形式を選択] で、[リッチインターネットアプリケーション] または [PDF] を選択します。
4. ドリルオプションで、以下のいずれかの操作を実行します。
  - a. ドリルアクションでデータソースからより多くのデータを取得するのに新しいクエリが必要な場合にアラートを受信するには、**ドリルでさらにデータが必要な場合はプロンプトを表示**チェックボックスを選択します。

Web Intelligence で新しいクエリを実行してデータソースから追加のデータを取得する必要がある場合に、アラートによって新しいクエリの実行が要求されます。フィルタを使用してクエリの範囲を制限して、分析に必要なデータのみを取得することができます。

たとえば、より高いかより低いレベルの情報にドリルする場合などです。
  - b. すべての Web Intelligence レポートブロックのドリルを同期するには、**レポートのブロックのドリルを同期化**を選択します。

レポート内のテーブル、チャート、またはセルは、それぞれがデータのブロックです。レポートのブロックにドリルすると、レポートのすべてのブロックが同時に同じレベルにドリルされます。
  - c. Web Intelligence レポートフィルタツールバーをドリルモードで非表示にするには、**開始時にレポートフィルタツールバーを非表示にします**チェックボックスを選択します。

デフォルトでは、ドリルモードを開始すると、ドリルしたレポートの上部にレポートフィルタツールバーが表示され、レポートをドリルしている値が表示されます。この値は、ドリルしたレポートに表示されている結果に適用されているフィルタです。レポートフィルタツールバーを使用して、結果をフィルタする値を選択できます。ドリルしたレポートに複数のクエリのディメンションが含まれる場合に、フィルタ値の上にカーソルを移動すると、ツールヒントにクエリの名前と値のディメンションが表示されます。

たとえば、ドリル時にフィルタを使用しない場合は、このチェックボックスを選択してツールバーを非表示にします。

ツールバーを表示しているときに、2011 年度のレポートをドリルする場合、たとえば 2011 年度の Q1、Q2、Q3、および Q4 の結果が表示されます (四半期ごとの値が "2011" という値でフィルタされます)。ツールバーに、レポートをドリルするために使用した値 (この場合は "2011") が表示されます。
5. [ドリルセッションの開始] で次のアクションのいずれかを実行します。
  - ドリル用に元のドキュメントのコピーを作成するには、**レポートのコピーで**を選択します。これにより、ドリルした結果と元のドキュメントデータを比較できます。ドリルモードを終了すると、元のレポートとドリルしたレポートのコピーを、表示で使用できます。
  - (デフォルト) 元のドキュメントのドリル結果を表示するには、**既存のレポートで**を選択します。
6. [ドキュメントの表示] で次のアクションのいずれかを実行します。
  - ドキュメントを作成したときに日付、時刻、および数値の書式設定に使用したロケールを保持するには、**データの書式設定にドキュメントのロケールを使用**を選択します。
  - Integration option for SharePoint で選択したロケールを使用して、日付、時刻、および数値を書式設定するには、**データの書式設定に現在の優先表示ロケールを使用**を選択します。
7. [MS Excel へ保存する優先順位の選択] で次のアクションのいずれかを実行します。
  - Web Intelligence 形式に似た書式設定で Microsoft Excel データを表示するには、**レポートの書式設定の優先順位をつける**を選択します。
  - テキスト形式で Excel データを表示するには、**Excel 内で容易なデータ処理の優先順位をつける**を選択します。
8. **OK** をクリックします。

## 5.3 サイトのパスワードの変更

パスワードを変更するには、管理者権限が必要です。

1. Integration Option for Microsoft SharePoint にログインします。
2. ページ上部で<ログオン名>をクリックして、表示されるメニューから [My SAP BusinessObjects 設定](#) を選択します。  
新しいウィンドウに [ユーザ設定] ページが表示されます。
3. [パスワードの変更の古いパスワード](#) ボックスに、現在のパスワードを入力します。
4. [新しいパスワード](#) ボックスに、新しいパスワードを入力します。
5. [新しいパスワードの確認](#) ボックスに、再度新しいパスワードを入力して [OK](#) をクリックします。

## 5.4 IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツのプロパティの編集

SAP BusinessObjects サイトの各ページで、IOMS-コンテンツエクスプローラの Web パーツのプロパティを設定する必要があります。

1. マウスポインタを IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーの上に移動して、表示される一覧で [[Web パーツの編集](#)] を選択します。  
Microsoft SharePoint 2007 では、このオプションは共有 [Web パーツの変更](#) と呼ばれます。  
[[プロパティ](#)] パネルがページの右側に表示されます。
2. [[プロパティ](#)] パネルの [[SAP BusinessObjects](#)] の下で、必要に応じてプロパティを選択して、[[OK](#)] をクリックします。

### 5.4.1 IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの開始フォルダプロパティの編集

ページを開くたびに IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの頻繁にアクセスするフォルダを表示するには、[開始フォルダ](#) プロパティを設定します。

[開始フォルダ](#) プロパティを頻繁にアクセスするフォルダに設定すると、開始フォルダのみが IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツに表示されます。[開始フォルダ](#) プロパティを指定した後で、各ページ上部のブレッドクラムを使用して、ファイル階層の上位レベルにあるファイルやフォルダに移動できます。

たとえば、Business Intelligence (BI) プラットフォームのお気に入りには My Favorites¥Reports¥Sales¥Profits\_2010¥California サブフォルダが含まれており、California フォルダには Q1.rpt、Q2.rpt、SanDiegoQ3.WebI、および LA\_Q4.xls というレポートとほかのサブフォルダが含まれています。サイトのホームページで [California] フォルダのすべての内容にアクセスするには、[[開始フォルダ](#)] プロパティに [[California](#)] を設定します。

1. 開始フォルダにするフォルダの CUID を取得します。

- a. サイトページの IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、フォルダのコンテキストメニューをクリックして、**プロパティ**を選択します。  
[ユーザーアクション] ページにフォルダのプロパティが表示されます。
  - b. ID, CUID というフォルダプロパティを見つけて、区切り記号の後の値をコピーします。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツの右上隅にマウスポインタを移動し、表示される矢印記号をクリックして、メニューの [**Web パーツの編集**] を選択します。  
[プロパティ] パネルがページの右側に表示されます。
  3. [プロパティ] パネルの [*SAP BusinessObjects*] の下の [**開始フォルダ**] ボックスに、ステップ1で取得した CUID をコピーして、[OK] をクリックします。

## 5.5 IOMS - 検索結果の表示 Web パーツのプロパティの編集

SAP BusinessObjects サイトでは、**検索結果**ページごとに表示する結果数を定義できます。

1. **検索結果** ページで、マウスポインタを IOMS - 検索結果の表示 Web パーツの上に移動します。
2. 表示される一覧で、[**Web パーツの編集**] を選択します。  
Microsoft SharePoint 2007 では、このオプションは**共有 Web パーツの変更**と呼ばれます。  
[プロパティ] パネルがページの右側に表示されます。
3. **プロパティ** パネルの *SAP BusinessObjects* で、**ページあたりの結果数** ボックスに1ページに表示する検索結果の数を入力して、**OK** をクリックします。















## 6 オブジェクトの使用



Business Intelligence (BI) プラットフォームリポジトリにあるドキュメントおよびファイルをオブジェクトといいます。通常、BI プラットフォーム管理者がオブジェクトをプラットフォームリポジトリに追加します。

さらに、管理者権限を持つユーザは、ローカルシステムから BI リポジトリにオブジェクトをアップロードしたり、フォルダ、カテゴリ、ハイパーリンク、Web Intelligence オブジェクト、Crystal Reports オブジェクト、および Analysis, edition for OLAP オブジェクト (初期のバージョンでは、Analysis, edition for OLAP は Advanced Analysis または Voyager という名前でした) を作成したりすることができます。

IOMS - コンテンツエクスプローラでフォルダまたはカテゴリを選択すると、統合オプションにより、アクセス権限を持っているすべてのオブジェクトタイプが表示されます。

BI プラットフォームリポジトリでアクセスできるオブジェクトタイプ

オブジェクトアイコン	説明
	プログラム (.exe)
	パブリケーション
	ハイパーリンク
	ショートカット
	Xcelsius ドキュメント
	Web Intelligence ドキュメント (.webi)
	Crystal レポート (.rpt)
	Analysis, edition for OLAP ドキュメント (初期のバージョンでは Advanced Analysis または Voyager)
	オブジェクト パッケージ
	リッチテキスト形式 (.rtf)
	Adobe Reader ドキュメント (.pdf)
	Microsoft Word ドキュメント (.doc)
	Microsoft Excel ドキュメント (.xls)
	Microsoft PowerPoint ドキュメント (.ppt)

オブジェクトアイコン	説明
	テキストファイル (.txt)
	サードパーティオブジェクト (不明なタイプのオブジェクト)

詳しい説明は、次のリソースを参照してください:

- *SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイド
- *SAP Crystal Reports* ユーザガイド
- *Web Intelligence* レポートパネルを使用したレポートの構築
- *Web Intelligence* ヘルプ
- *SAP BusinessObjects Analysis, Edition for OLAP* ユーザガイド

## 6.1 タイプ別のオブジェクトへのアクセス

迅速にアクセスするために、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、Excel スプレッドシートなどの特定のオブジェクトタイプのみを表示することができます。

1. IOMS-コンテンツエクスプローラの一覧パネルで、[[タイプ](#)] または [[タイプの説明](#)] 列タイトルをクリックします。  
表示されるメニューで、すべてのオブジェクトタイプが一覧表示されます。オブジェクトタイプは、[[タイプ](#)] 列ではアイコンで示され、[[タイプの説明](#)] 列ではテキストで示されます。
2. アクセスするオブジェクトタイプをクリックします。  
一覧パネルが最新表示され、選択したオブジェクトタイプだけが表示されます。

## 6.2 オブジェクトの作成

フォルダ、カテゴリ、ハイパーリンク、Web Intelligence オブジェクト、Crystal Reports オブジェクト、および Analysis, edition for OLAP オブジェクトを作成できます。

オブジェクトを作成するには、管理者権限が必要です。

IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーで[新規作成](#)をクリックして、作成するオブジェクトタイプを選択します。

### 6.2.1 ハイパーリンクの作成

ハイパーリンクを使用すると、Integration Option for SharePoint 外部の関連する Web サイトにユーザを移動させることができます。

ハイパーリンクを作成するには、管理者権限が必要です。

Integration Option for SharePoint software で作成した Web ページへのハイパーリンクを自分のサイトで作成して、OpenDocument リンクをハイパーリンクの URL として使用できます。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、ハイパーリンクを作成するフォルダを検索して選択します。

(SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010) SAP BusinessObjects サイト上部のメニューで **[新規作成]** を選択して、**[ユーザアクション]** ページの **[ハイパーリンクの追加]** セクションに移動することもできます。

2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで **[新規作成]** をクリックして、一覧から **[ハイパーリンク]** を選択します。
3. **[一般プロパティ]** の **[タイトル]** ボックスに、ハイパーリンクの名前を入力します。
4. (オプション) **[説明]** ボックスに、ハイパーリンクの説明を入力します。
5. (オプション) **[キーワード]** ボックスに、ハイパーリンクのキーワードを入力します。
6. **[URL]** で、リンク先の Web サイトの URL を「**http://**」を含めて入力します。
7. **[カテゴリ]** でハイパーリンクに割り当てるカテゴリを選択して、**[OK]** をクリックします。

## 6.2.2 パブリケーションの作成

Business Intelligence (BI) プラットフォームリポジトリの Crystal レポート、および Web Intelligence ドキュメントに対して、パブリケーションを作成して受信者に送信できます。

サイトを SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートを使用して作成した場合、パブリケーションを作成するには、公開するドキュメントを **[レポートリポジトリ]** フォルダまたは **[お気に入り]** フォルダに置く必要があります。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、パブリケーションを作成するフォルダを検索して選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで **[新規作成]** をクリックして、表示される一覧で **[パブリケーション]** を選択します。

(SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010) SAP BusinessObjects サイト上部のメニューで **[新規作成]** を選択することもできます。

**[ユーザアクション]** ページにパブリケーションビューが表示されます。デフォルトでは **[一般オプション]** タブが選択されています。

3. **タイトル** ボックスに、パブリケーションの名前を入力します。
4. (オプション) **説明** ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。  
**[ユーザアクション]** ページにパブリケーションビューが表示されます。
5. (オプション) **キーワード** ボックスに、パブリケーションのキーワードを入力します。
6. **[ソースドキュメント]** タブをクリックして、**[追加]** ボタンをクリックします。  
**ソースドキュメントの選択** ダイアログボックスが開きます。
7. 公開するドキュメントを1つまたは複数見つけて選択して、**[OK]** をクリックします。  
ドキュメントは、フォルダ構造で見つけるか、検索して見つけることができます。

**[ユーザアクション]** ページにパブリケーションビューが表示されます。パブリケーションビューには、選択したドキュメントが含まれます。選択したドキュメントのタイプに基づいて、パブリケーションビューに新しいスケジュールタブが表示されます。

たとえば、Crystal Reports を公開することを選択した場合、パブリケーションビューの新しいタブは、[Enterprise 受信者](#)、[動的受信者](#)、[パーソナライゼーション](#)、[形式](#)、[出力先](#)、および[追加オプション](#)になります。

8. (オプション) 必要に応じてスケジュールオプションを設定します。
9. [保存して閉じる](#)をクリックします。  
パブリケーションが選択したフォルダに追加され、IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツに表示されます。

パブリケーション名にマウスポインタを合わせて、インスタンスをスケジュールおよび表示するなど、パブリケーションに対して実行できるアクションのメニューを表示します。

## 6.2.3 フォルダの作成


1. IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツで、フォルダ (レポートリポジトリやお気に入り) またはフォルダを作成するビューを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで [\[新規作成\]](#) をクリックして、表示される一覧から [\[フォルダ\]](#) を選択します。  
(SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010) SAP BusinessObjects サイト上部のメニューで [\[新規作成\]](#) を選択することもできます。  
[\[フォルダの作成\]](#) ダイアログボックスが表示されます。
3. [新しいフォルダ名](#) ボックスでフォルダの名前を入力し、[OK](#) をクリックします。  
新しいフォルダが追加され、IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツに表示されます。

## 6.2.4 Web Intelligence ドキュメントの作成

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、Web Intelligence ドキュメントを作成するフォルダ (レポートリポジトリかお気に入り) またはビューを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで [\[新規作成\]](#) をクリックして、表示される一覧で [\[Web Intelligence ドキュメント\]](#) を選択します。  
[ユーザアクション](#) ページが表示されます。
3. [\[Web Intelligence ドキュメント\]](#) 領域で、 ([\[新規作成\]](#)) アイコンをクリックします。  
(SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010) SAP BusinessObjects サイト上部のメニューで [\[新規作成\]](#) を選択することもできます。  
[\[Web Intelligence ドキュメントの新規作成\]](#) ダイアログボックスに、使用可能なデータソースの一覧が表示されます。
4. データソースとして [\[ユニバース\]](#) を選択して、[\[OK\]](#) をクリックします。  
[\[ユニバース\]](#) ダイアログボックスに使用可能なユニバースが表示されます。
5. Web Intelligence ドキュメントを作成するユニバースをダブルクリックします。  
[\[クエリパネル\]](#) ダイアログボックスが開きます。[\[ユニバースのアウトライン\]](#) 領域に、選択したユニバースのディメンションが表示されます。
6. ディメンションを [\[結果オブジェクト\]](#) 領域にドラッグします。



7. データセットにフィルタを適用するには、必要なフィルタを [\[ユニバースのアウトライン\]](#) 領域から [\[クエリフィルタ\]](#) 領域に移動します。

フィルタは  アイコンで表示されます。

8. [\[クエリの実行\]](#) ボタンをクリックします。  
選択したディメンションとフィルタに基づき、Web Intelligence レポートが生成されます。レポートは、[\[ユーザーアクション\]](#) ページの [\[Web Intelligence ドキュメント\]](#) 領域に表示されます。
9. [\[Web Intelligence ドキュメント\]](#) 領域の [\[ファイル\]](#) タブで、[\[保存\]](#) をクリックします。  
[\[ドキュメントの保存\]](#) ダイアログ ボックスが表示されます。
10. BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) かローカルマシンのフォルダまたはカテゴリ階層内の場所を選択して、[保存](#) をクリックします。

新しい Web Intelligence ドキュメントを自分のサイトのお気に入りかレポートリポジトリフォルダまたはカテゴリに保存した場合、IOMS - コンテンツエクスプローラの該当する場所にそのドキュメントが表示されます。

## 6.3 オブジェクトのプロパティの編集

オブジェクトおよびオブジェクトが属するカテゴリのタイトル、説明、およびキーワードのプロパティを変更できます。

オブジェクトのプロパティを編集するには、管理者権限が必要です。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、オブジェクトを含むフォルダを見つけ、IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーで [アクション](#) をクリックして、一覧で [プロパティ](#) を選択します。  
[\[一般プロパティ\]](#) 領域が [\[ユーザーアクション\]](#) ページに表示されます。
2. [タイトル](#) ボックスに、オブジェクトの名前を入力します。
3. (オプション) [説明](#) ボックスに、オブジェクトの説明を入力します。
4. (オプション) [キーワード](#) ボックスにオブジェクトのキーワードを入力して、[OK](#) をクリックします。

## 6.4 フォルダまたはカテゴリの作成

1. 新しいフォルダまたはカテゴリを追加するフォルダ、カテゴリ、またはビューに移動します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[新規作成](#) をクリックし、[フォルダ](#) または [カテゴリ](#) をクリックします。
3. フォルダまたはカテゴリの名前を入力して、[OK](#) をクリックします。



## 6.4.1 カテゴリへのオブジェクトの割り当て

IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツのカテゴリビューのオブジェクトを素早く取得する必要がある場合は、カテゴリにオブジェクトを割り当てることができます。

1. オブジェクトのファイルを右クリックし、[カテゴリ](#)を選択します。  
[[ユーザアクション](#)] ページと [[カテゴリを追加](#)] ダイアログボックスが表示されます。
2. オブジェクトに割り当てるカテゴリを選択して、[OK] をクリックします。

## 6.5 BI プラットフォームリポジトリへのドキュメントの追加

Integration Option for SharePoint software にログオン中、オブジェクト (Crystal レポート、Word または Excel で作成したその他のドキュメント、PDF ファイル) を、ローカルマシンから Business Intelligence (BI) プラットフォームリポジトリに追加できます。

ローカルドキュメントを BI プラットフォームリポジトリに追加するには、管理者権限が必要です。

たとえば、ある合併が販売に与えた影響についてのレポートをビジネスアナリストが作成し、社内でそのレポートを共有する必要があるとします。ビジネスアナリストがレポートを BI プラットフォームリポジトリに追加すると、社内の適切なアクセス権限を持つ全員がレポートを表示できます。

複数オブジェクトの追加の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドの「公開ウィザードの情報」を参照してください。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、ローカルドキュメントを追加するフォルダを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[[アップロード](#)] をクリックします。  
[[ユーザアクション](#)] ページが表示されます。
3. [ローカルドキュメント](#) 領域で、[ファイル名](#) ボックスにローカルドキュメントのパスを入力するか、[参照](#) をクリックしてファイルを見つけます。
4. 必要に応じて、ドキュメントのタイトル、説明、またはキーワードを変更します。
5. [カテゴリ](#) 領域で、ドキュメントの [個人用](#) または [会社用](#) カテゴリを選択して、[OK] をクリックします。  
ローカルドキュメントがすべてのプロパティとともに、IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの選択されたフォルダにアップロードされます。

## 6.6 オブジェクトの並べ替え

デフォルトでは、オブジェクトはアルファベット順に並んでいます。この順序を逆にするか、列見出し ([[最終実行日時](#)]、[[タイプ](#)]、[[所有者](#)] など) でオブジェクトを並べ替えることができます。

1. オブジェクトを並べ替える基準とする列見出しをクリックします。
2. 表示されるメニューで、[[昇順並べ替え](#)] または [[降順並べ替え](#)] を選択します。

## 6.7 オブジェクトのコピー

コピーツールバーボタンを使用してクリップボードにオブジェクトのコピーを作成して、貼り付けボタンでコピーしたオブジェクトを配置します。

オブジェクトのコピーを作成した後に、元のバージョンを変更せずに新しいオブジェクトを編集することができます。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、コピーするオブジェクトを見つけて選択します。
2. IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーでアクションをクリックして、**整理** > **コピー** を選択します。

### → ヒント

複数のオブジェクトをコピーするには、一覧パネルでオブジェクトのチェックボックスを選択して、**アクション** > **整理** > **コピー** をクリックします。

オブジェクトがクリップボードにコピーされます。

3. オブジェクトをコピーするフォルダを見つけて選択します。
4. IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーでアクションをクリックして、**整理** > **貼り付け** を選択します。

## 6.8 オブジェクトの移動

切り取りツールバーボタンを使用して現在の場所からオブジェクトを削除して、貼り付けボタンでオブジェクトを新しい場所に配置します。

オブジェクトへのショートカットは、オブジェクトの移動後も機能します。

### ① 注記

あるオブジェクトを選択して**切り取り**をクリックしてから、別のオブジェクトを選択して**切り取り**または**コピー**をクリックした場合、2回目の**切り取り**または**コピー**アクションが優先されます。最初に**切り取り**をクリックしたオブジェクトは変更されません。

たとえば、最近2つ目の事業所を開設した会社が従業員レポートを事業所別に整理するとします。各事業所用のフォルダは既に存在します。2つ目の事業所で働く従業員に関するレポートを適切なフォルダに移動する必要があります。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、移動するオブジェクトを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで**アクション**をクリックして、**切り取り**を選択します。  
オブジェクトがクリップボードにコピーされますが、新しい場所に貼り付けるまでこのオブジェクトは削除されません。
3. 移動したオブジェクトを配置するフォルダを見つけて選択します。
4. IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーで**アクション**をクリックして、**整理** > **貼り付け** を選択します。

## 6.9 オブジェクトの削除

オブジェクトを削除すると、そのオブジェクトに対するすべてのショートカットも削除されます。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、削除するオブジェクトを見つけて選択します。
2. IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーで [アクション](#) をクリックして、**整理** > **削除** を選択します。
3. **[OK]** をクリックして削除を確認します。

## 6.10 オブジェクトへのショートカットの作成

オブジェクトへのショートカットを作成すれば、容易にアクセスできます。

ショートカットは、IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの一覧パネルに表示され、オブジェクトの最新バージョンにリンクされます。たとえば、人事部の職員は従業員の休暇期間に関するレポートを毎日参照する必要があり、そのレポートにアクセスするには複数のフォルダを移動する必要がある場合があります。[お気に入り] フォルダにレポートへのショートカットを作成すれば、容易にアクセスできます。

### ① 注記

ショートカットはオブジェクトです。ショートカットでは、オブジェクトで実行できるすべてのアクション（プロパティの設定など）を実行できます。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、ショートカットを作成するオブジェクトを見つけて選択します。
2. IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーで [アクション](#) をクリックして、**整理** > **ショートカットのコピー** を選択します。
3. ショートカットを作成するフォルダを見つけて選択します。
4. IOMS - コンテンツエクスプローラのツールバーで [アクション](#) をクリックして、**整理** > **ショートカットの貼り付け** を選択します。

## 6.11 OpenDocument リンクを使用したドキュメントのオープン

SharePoint 内でドキュメントを開くのではなく、OpenDocument リンクを使用してドキュメントを開くには、以下の手順に従います。

1. `<Install Directory>¥SAP BusinessObjects¥SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0¥conf¥iPoint¥ipointconfig.xml` にある `ipointconfig.xml` を開きます。
2. `<BusinessObjectsEnterpriseSharePointInfoViewDocumentViewerUrl>` フィールドで、`:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?sIDType=CUID&iDocID=%id%&token=%token%&lang=%lang%` を `/_layouts/OpenDocument/opendoc/openDocument.aspx?`

sKind=%type%&iSIDType=CUID&iDocID=id%&token=%token%&lang=%lang%  
に置換します。

3. インターネットインフォメーションサービス (IIS) をリセットするには、▶ [Windows](#) ▶ [ファイル名を指定して実行](#) ▶ [iisreset](#) ▶ を選択します。▶ [Windows](#) ▶ [コマンド プロンプト](#) ▶ [iisreset](#) ▶ を選択することもできます。

## 7 オブジェクトのスケジュール

オブジェクトをスケジュールすると、指定した時間にオブジェクトが自動的に実行されます。正常にスケジュールされたオブジェクトごとにインスタンスが作成されます。

インスタンスは、オブジェクトの実行時刻以降のデータを含むオブジェクトのバージョンです。オブジェクトの履歴には、作成されたインスタンスの一覧が含まれます。

オブジェクトをスケジュールすることで、表示、印刷、および配布の最新情報をインスタンスに確実に含めるようになります。次のタイプのオブジェクトをスケジュールできます。

- Crystal レポート
- オブジェクトパッケージ  
オブジェクトパッケージは、複数のコンポーネントのコンテナ (サブオブジェクト) として機能するオブジェクトです。オブジェクトパッケージは、Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で作成して編集します。オブジェクトパッケージをスケジュールすると、すべてのコンポーネントは同時にスケジュールされ、インスタンスが各コンポーネントに対して作成されます。オブジェクトパッケージの1つのコンポーネントはスケジュールできません。
- プログラム
- パブリケーション
- Web Intelligence ドキュメント

オブジェクトをスケジュールする前に、Integration option for SharePoint software の [\[ユーザ設定\]](#) ページの [\[全般\]](#) でタイムゾーンを設定します。タイムゾーンを設定することで、スケジュールしたオブジェクトがローカルタイムで確実に処理されるようになります。デフォルトのタイムゾーンは、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、ユーザが接続する Central Management Server (CMS) のタイムゾーンではないことに注意してください。

スケジュールの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence 起動パッドユーザガイド* および *SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド* を参照してください。

### 7.1 オブジェクトのスケジュール

オブジェクトをスケジュールする前に、Integration option for SharePoint software でタイムゾーンが設定済みであることを確認します。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、スケジュールするオブジェクトを含むフォルダを検索して選択します。
2. オブジェクトを右クリックして、[\[スケジュール\]](#) を選択します。  
[\[ユーザアクション\]](#) ページが表示されます。
3. [スケジュール](#) で、オブジェクトタイプ用のスケジュールオプションを選択して、[スケジュール](#) をクリックします。

## 7.2 オブジェクトパッケージのスケジュール

1. スケジュールするオブジェクトパッケージを見つけて選択します。
2. ツールバーで[アクション](#)をクリックし、表示されるリストで[スケジュール](#)を選択します。
3. [スケジュール](#)ダイアログボックスの[インスタンスタイトル](#)ボックスで、インスタンスの名前を入力します。
4. [\[繰り返し\]](#)をクリックし、オブジェクトパッケージの[\[オブジェクトの実行\]](#)リストから定期的なスケジュールパターンを選択します。
5. [\[イベント\]](#)をクリックし、オブジェクトパッケージに関する1つまたは複数のイベントを選択します。
6. [サーバグループのスケジュール](#)をクリックし、オブジェクトパッケージのサーバグループオプションを選択します。
7. [出力先](#)をクリックし、オブジェクトパッケージの出力先を選択します。
8. [\[コンポーネント\]](#)をクリックし、コンポーネント名をクリックして、コンポーネントの通知、データベースログオン、フィルタ、形式、印刷、キャッシュ、パラメータ/プロンプトを設定し、[\[OK\]](#)をクリックします。
9. オブジェクト内のコンポーネントごとに、手順8を繰り返します。
10. [スケジュール](#)をクリックします。

スケジュールされた時間にオブジェクトパッケージが実行されます。

## 7.3 パブリケーションの書式設定オプション

ドキュメントの種類	形式	説明
すべての種類	<a href="#">mHTML</a>	ドキュメントを、電子メールに埋め込むことができる mHTML 形式で公開します。Crystal レポートの場合は、1つのレポートの内容を電子メールに埋め込むことができます。Web Intelligence ドキュメントの場合は、1つのレポートタブの内容を電子メールに埋め込むことができます。  ドキュメントは、ソースドキュメントが <a href="#">[新規パブリケーション]</a> ダイアログボックスに一覧表示される順序で出力されます。たとえば、ダイアログボックスの上部のドキュメントは電子メールの上部に表示されます。
	<a href="#">PDF</a>	ドキュメントを静的な PDF ファイルとして公開します。PDF マージと合わせてこのオプションを使用すると、ドキュメントは、ソースドキュメントが <a href="#">[新規パブリケーション]</a> ダイアログボックスに一覧表示される順序で出力されます。たとえば、ダイアログボックスの上部のドキュメントはマージされた PDF ファイルの上部に表示されます。
	<a href="#">Microsoft Excel(97-2003)</a>	ドキュメントを Microsoft Excel (.xls) ファイルとして公開し、元の書式設定をできる限り保持します。

ドキュメントの種類	形式	説明
Crystal レポート	<a href="#">Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)</a>	Crystal レポートを、データのみを含む Excel (.xls) ファイルとして公開します。
	<a href="#">Microsoft Excel Workbook データのみ</a>	
	<a href="#">XML</a>	Crystal レポートを XML (.xml) 形式で公開します。
	<a href="#">Crystal Reports</a>	Crystal レポートを元の (.rpt) 形式で公開します。
	<a href="#">Crystal レポート (RPTR)</a>	Crystal レポートを読み取り専用 (.rpitr) 形式で公開します。
	<a href="#">Microsoft Word(97-2003)</a>	Crystal レポートを Microsoft Word (.doc) ファイルとして公開し、Crystal レポートの元の書式を保持します。受信者が変更を加えずにパブリケーションを表示する場合に、このオプションを使用します。
	<a href="#">Microsoft Word - 編集可能 (RTF)</a>	Crystal レポートを、受信者が編集できる Word (.rtf) ファイルとして公開します。受信者がパブリケーションを表示してその内容を編集する場合に、このオプションを使用します。
	<a href="#">リッチテキスト形式(RTF)</a>	Crystal レポートをリッチテキスト形式 (.rtf) で公開します。
	<a href="#">テキスト</a>	Crystal レポートをテキスト (.txt) 形式で公開します。
	<a href="#">ページ区切り付きテキスト</a>	Crystal レポートをテキスト (.txt) 形式で公開し、パブリケーションの内容をページで区切ります。
	<a href="#">タブ区切りテキスト (TTX)</a>	Crystal レポートをテキスト (.txt) 形式で公開し、タブを使用して列の内容を区切ります。
	<a href="#">カンマ区切り値(CSV)</a>	Crystal レポートを文字区切り値 (.csv) ファイルとして公開します。
Web Intelligence ドキュメント	<a href="#">Web Intelligence</a>	Web Intelligence ドキュメントを元の (.wid) 形式で公開します。

## 7.3.1 Crystal レポートの書式設定オプション

書式設定オプションとして [\[タブ区切りテキスト \(TTX\)\]](#) を選択する場合は、追加のオプションは表示されません。  
[\[PDF\]](#) オプションは、PDF ファイルとして公開されるソースドキュメントに適用されます。

### Microsoft Excel(97-2003)

オプション	説明
<a href="#">ページ範囲</a>	<ul style="list-style-type: none"><li>レポート全体を Excel ファイルとして公開する場合は、<a href="#">[すべて]</a> を選択します。</li><li>特定のレポートページを公開するには、<a href="#">[ページ]</a> を選択し、<a href="#">[開始]</a> ボックスに最初のページ番号を入力してから、<a href="#">[終了]</a> ボックスに最後のページ番号を入力します。</li></ul>
<a href="#">[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]</a> チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
<a href="#">列幅の設定</a>	<ul style="list-style-type: none"><li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義するには、<a href="#">[列幅を次のオブジェクトに合わせる]</a> を選択して、<a href="#">[レポート全体]</a>、<a href="#">[レポートヘッダ]</a>、<a href="#">[ページヘッダ]</a>、<a href="#">[グループヘッダ #]</a>、<a href="#">[詳細]</a>、<a href="#">[グループフッタ #]</a>、<a href="#">[ページフッタ]</a>、または <a href="#">[レポートフッタ]</a> の一覧からオプションを選択します。</li><li>すべてのレポート列に対して一定の幅を定義する場合は、<a href="#">[列幅を一定にする (ポイント単位)]</a> を選択して、ボックスに数値を入力します。</li></ul>
<a href="#">ページヘッダとページフッタをエクスポートする</a>	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、 <a href="#">[なし]</a> 、 <a href="#">[レポートごとに1回]</a> 、または <a href="#">[各ページ]</a> の一覧からオプションを選択します。
<a href="#">ページごとにページ区切りを作成する</a>	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。
<a href="#">日付の値を文字列に変換する</a>	このチェックボックスを選択すると、データ値をテキスト文字列に変換できます。
<a href="#">グリッドラインを表示する</a>	このチェックボックスを選択すると、Excel ファイルにグリッドラインを表示できます。

### Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)

[\[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用\]](#) チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。



オプション	説明
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、[レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または[レポートフッタ]の一覧からオプションを選択します。</li> <li>すべてのレポート列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)]を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	レポートのオブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、[なし]、[レポートごとに1回]、または[各ページ]の一覧からオプションを選択します。
ページヘッダを簡略化する	レポートのページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

## Microsoft Excel ワークブックデータのみ

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、[レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または[レポートフッタ]の一覧からオプションを選択します。</li> <li>すべてのレポート列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)]を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	レポートのオブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、[なし]、[レポートごとに1回]、または[各ページ]の一覧からオプションを選択します。
ページヘッダを簡略化する	レポートのページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

## Microsoft Word(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"><li>レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。</li><li>特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。</li></ul>

## PDF

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"><li>レポート全体を PDF ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。</li><li>特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。</li></ul>
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
グループツリーからブックマークを作成	グループツリー構造に基づいて、生成された PDF ファイルにブックマークを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。

## リッチテキスト形式 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"><li>レポート全体を RTF ファイルとして公開する場合は、[すべて]を選択します。</li><li>特定のレポートページを公開するには、[ページ]を選択し、[開始] ボックスに最初のページ番号を入力してから、[終了] ボックスに最後のページ番号を入力します。</li></ul>

## Microsoft Word - 編集可能 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"><li>レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、<a href="#">[すべて]</a>を選択します。</li><li>特定のレポートページを公開するには、<a href="#">[ページ]</a>を選択し、<a href="#">[開始]</a> ボックスに最初のページ番号を入力してから、<a href="#">[終了]</a> ボックスに最後のページ番号を入力します。</li></ul>
<a href="#">[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]</a> チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
レポートのページごとに改ページする	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

## テキスト

[\[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用\]](#) チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
インチあたりの文字数	テキストファイルで1インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は8～16です。

## ページ区切り付きテキスト

[\[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用\]](#) チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
1 ページあたりの行数	ページ区切り付きテキストファイルで1ページあたりに表示する行数を入力します。
インチあたりの文字数	ページ区切り付きテキストファイルで1インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は8～16です。

## カンマ区切り値 (CSV)

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り	値の区切り文字として使用する文字を入力するか、 <input type="checkbox"/> [タブ] チェックボックスを選択してタブで値を区切ります。
モード	[標準モード] (デフォルト) または [レガシーモード] を選択します。標準モードでは、CSV 出力にレポートのページ、グループヘッダ、およびグループフッタを表示する方法を制御できます。
レポートセクションとページセクション	<ul style="list-style-type: none"><li>レポートセクションとページセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。</li><li>レポートセクションとページセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。</li><li>レポートセクションとページセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。</li></ul>
グループセクション	<ul style="list-style-type: none"><li>グループセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。</li><li>グループセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。</li><li>グループセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。</li></ul>

## XML

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
XML エクスポート形式	XML 形式を指定するには、一覧からオプションを選択します。

## 7.4 パブリケーション出力先

パブリケーションには、次の出力先が使用できます。

- デフォルトの *Enterprise* の場所
- BI 受信ボックス
- 電子メール
- FTP サーバ
- ファイルシステム
- SFTP サーバ

デフォルトでは、すべての出力先に対して [\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受信されます。[\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェックボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回 (受信者ごとに 1 回ずつ) 配信されます。

### デフォルトの **Enterprise** の場所

この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
それを作成したフォルダ	<ul style="list-style-type: none"><li>• すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>• パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul>	Output File Repository Server 履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。

## BI 受信ボックス

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
各受信者の BI 受信ボックス	<ul style="list-style-type: none"><li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ)</li><li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li><li>個別のユーザにオブジェクトを配信する</li><li>デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。</li></ul> <div><p>① 注記</p><p>ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p></div> <ul style="list-style-type: none"><li>パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Output File Repository Server</li><li>指定された BI 受信ボックス</li></ul>

## 電子メール

レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
電子メールで各受信者に	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> <li>個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>(必須) <a href="#">差出人</a> ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>指定された電子メール受信者</li> </ul>
<div data-bbox="667 797 762 831">① 注記</div> <div data-bbox="667 853 978 1361"> <p>電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。<a href="#">[差出人]</a> ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">宛先</a> ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、<a href="#">電子メールアドレス</a> のプレースホルダを追加する</li> <li><a href="#">CC</a> ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、<a href="#">電子メールアドレス</a> のプレースホルダを追加する</li> <li><a href="#">BCC</a> ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、<a href="#">電子メールアドレス</a> のプレースホルダを追加する</li> <li><a href="#">[件名]</a> ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する</li> </ul>		



パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"> <li>メッセージを入力し、リッチテキストエディタを使用して書式設定オプションにカスタマイズするか、プレースホルダを追加して、[メッセージ] ボックスで電子メールの本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む</li> <li>ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する</li> </ul>	
	<div data-bbox="647 741 992 1032"> <p>① 注記</p> <p>電子メールにイメージを挿入すると、使用されているイメージリンクに送信者および受信者の両方がアクセスできる場合、イメージが自動的にダウンロードされます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。</li> </ul>	
	<div data-bbox="647 1406 992 1585"> <p>① 注記</p> <p>ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> </div>	

## FTP サーバ

パブリケーションを *FTP サーバ* 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、**各ユーザにオブジェクトを配信** チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
<p>FTP サーバ</p> <p>(ホストボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります。入力しないと、プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> <li>ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>ディレクトリ名を入力する。</li> <li>デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。</li> </ul> <div> <p>① 注記</p> <p>ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択された FTP サーバ</li> </ul>

## ファイルシステム

パブリケーションをファイルシステム出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、**各ユーザにオブジェクトを配信**チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。**各ユーザにオブジェクトを配信**をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
ファイルシステムのディレクトリ (パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> <li>ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する</li> <li>個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する  <a href="#">[指定の名前を使用する]</a> を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、<a href="#">[ファイル拡張子]</a> プレースホルダを追加するか、<a href="#">[ファイル拡張子を追加する]</a> チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。 </li></ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択されたファイルの場所</li> </ul>

① 注記

ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。

## SFTP サーバ

パブリケーションを [\[SFTP サーバ\]](#) 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[\[各ユーザにオブジェクトを配信\]](#) をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

パブリケーション出力先	パブリケーションで実行可能なアクション	インスタンスの保存先
<p>SFTP サーバ</p> <p>([<a href="#">ホスト</a>] ボックスに、SFTP サーバの場所を入力する必要があります。入力しないと、プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された SFTP サーバを使用します。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal Reports レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> <li>ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>ディレクトリ名を入力する。</li> <li>フィンガープリントを入力する。</li> <li>デフォルトのファイル名を使用するか、指定のファイル名を入力してプレースホルダを追加する [指定の名前を使用する] を選択する場合、ファイル拡張子を入力するか、[ファイル拡張子] プレースホルダを追加するか、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択して拡張子を自動的にファイル名に追加します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択された SFTP サーバ</li> </ul>

① 注記

ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。

## 7.4.1 出力先オプション

セントラル管理コンソール (CMC) の [[サーバ](#)] エリアで、デフォルトの Adaptive Job Server の設定を変更できません。

### ① 注記

CMC では、スケジュール時の出力先として [Google ドライブ](#) はサポートされていません。ただし、この出力先は追加する必要があります。BI ラウンチパッドでは、この出力先を選択することができます。

詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

## デフォルトの **Enterprise** の場所のオプション

オプション	説明
出力先	<p><b>デフォルトの Enterprise の場所</b></p> <p>スケジュールされたジョブは、Output File Repository Server (FRS) で実行されます。この出力先では、追加のオプションを設定する必要はありません。履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>

## BI 受信ボックスのオプション

オプション	説明
出力先	<b>BI 受信ボックス</b>
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>BI 受信ボックスのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
[利用可能な受信者] および [選択した受信者]	<p>[利用可能な受信者] 一覧で、インスタンスの送信先とするユーザまたはユーザグループを選択して、[&gt;] をクリックして [選択した受信者] 一覧にユーザまたはユーザグループを追加します。</p>
タイトルの検索 (利用可能な場合)	<p>[利用可能な受信者] 一覧でユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。</p>
ターゲット名	<ul style="list-style-type: none"><li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li><li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧からファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[日付]、および [ファイル拡張子] です。</li></ul>
送信形式	<ul style="list-style-type: none"><li>インスタンスへのショートカットを受信者に送信するには、[ショートカット] を選択します。</li><li>インスタンスのコピーを受信者に送信するには、[コピー] を選択します。</li></ul>

## 電子メールのオプション

オプション	説明
出力先	電子メール
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>電子メールのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
開始日	<p>差出人の電子メールアドレスを入力するか、[<a href="#">プレースホルダの追加</a>] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[<a href="#">タイトル</a>]、[<a href="#">ID</a>]、[<a href="#">所有者</a>]、[<a href="#">日時</a>]、(ユーザの)[<a href="#">電子メールアドレス</a>]、[<a href="#">ユーザのフルネーム</a>]、および[<a href="#">日付</a>]です。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p> <p>システム設定によっては、このオプションを使用できない場合があります。</p>
終了日	<p>インスタンスを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[<a href="#">プレースホルダの追加</a>] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[<a href="#">タイトル</a>]、[<a href="#">ID</a>]、[<a href="#">所有者</a>]、[<a href="#">日時</a>]、(ユーザの)[<a href="#">電子メールアドレス</a>]、[<a href="#">ユーザのフルネーム</a>]、および[<a href="#">日付</a>]です。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
CC	<p>電子メールおよびインスタンスのコピーを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[<a href="#">プレースホルダの追加</a>] 一覧から電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[<a href="#">タイトル</a>]、[<a href="#">ID</a>]、[<a href="#">所有者</a>]、[<a href="#">日時</a>]、(ユーザの)[<a href="#">電子メールアドレス</a>]、[<a href="#">ユーザのフルネーム</a>]、および[<a href="#">日付</a>]です。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
BCC	<p>非公開受信者の電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[<a href="#">プレースホルダの追加</a>] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[<a href="#">タイトル</a>]、[<a href="#">ID</a>]、[<a href="#">所有者</a>]、[<a href="#">日時</a>]、(ユーザの)[<a href="#">電子メールアドレス</a>]、および[<a href="#">ユーザのフルネーム</a>]です。変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
返信先	<p>宛先として電子メールの特定のユーザに対して [<a href="#">返信先</a>] オプションを使用できるようになりました。これは、CMC と BI ラウンチパッドの両方でのスケジュールに適用できます。</p>
件名	電子メールの件名を入力します。

オプション	説明
メッセージ	<p>電子メールの本文について、さまざまな書式設定オプションを含むカスタムツールバーを含むリッチテキストエディタを使用して、メッセージコンテンツをカスタマイズできるようになりました。</p> <div> <p>① 注記</p> <p>電子メールにイメージを挿入すると、使用されているイメージリンクに送信者および受信者の両方がアクセスできる場合、イメージが自動的にダウンロードされます。</p> </div>
添付ファイルの追加	<p>インスタンスを含む電子メールに添付ファイルを追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する]を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する]を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</li> </ul>

## FTP サーバのオプション

オプション	説明
出力先	FTP サーバ
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>FTP サーバのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p> <p>CMC の [サーバ] エリアで、値を変更できます。詳細については、<i>SAP BusinessObjects Business Intelligence</i> プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。</p>
ホスト	<p>インスタンスを送信する FTP サーバホストコンピュータの IP アドレスを入力します。</p>
ポート	<p>インスタンスを送信する FTP サーバのポートを入力します。デフォルトは「21」です。</p>

オプション	説明
ユーザ名	FTP サーバにオブジェクトをアップロードするアクセス権限を持つユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。
アカウント	FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。  アカウントは標準の FTP プロトコルの一部ですが、実装されている場合はまれです。アカウントは、FTP サーバで必要な場合にのみ入力します。
ディレクトリ	インスタンスを送信する FTP ディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する]を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する]を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、[日付]、および[ファイル拡張子]です。 インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する]チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</li> </ul>

## SFTP (セキュア FTP) サーバのオプション

オプション	説明
出力先	<i>SFTP サーバ</i>
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>FTP サーバのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p> <p>CMC の[サーバ]エリアで、値を変更できます。詳細については、<i>SAP BusinessObjects Business Intelligence</i> プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。</p>
ホスト	インスタンスを送信する FTP サーバホストコンピュータの IP アドレスを入力します。
ポート	インスタンスを送信する FTP サーバのポートを入力します。デフォルトは「21」です。



オプション	説明
ユーザ名	FTP サーバにオブジェクトをアップロードするアクセス権限を持つユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。
アカウント	FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。  アカウントは標準の FTP プロトコルの一部ですが、実装されている場合はまれです。アカウントは、FTP サーバで必要な場合にのみ入力します。
ディレクトリ	インスタンスを送信する FTP ディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する]を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する]を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの)[電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、[日付]、および[ファイル拡張子]です。 インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する]チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</li> </ul>
フィンガープリント	フィンガープリントを入力します。フィンガープリントの入力方法の詳細については、 <i>SAP BusinessObjects Business Intelligence</i> プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

## ファイルシステムのオプション

オプション	説明
出力先	ファイルシステム
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>インスタンスは、イベントを監査するのに必要です。このチェックボックスは、スケジュールされたオブジェクトで監査が有効にされている場合は、無効にされます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>ファイルシステムのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>

オプション	説明
ユーザ名	出力先ディレクトリにファイルを保存するアクセス権限を持つユーザ名を入力します。 Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。
パスワード	出力先ディレクトリへのアクセスに必要なユーザパスワードを入力します。 Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。
ディレクトリ	ローカルハードディスクの場所がマップされた場所へのパス、またはインスタンスを送信するディレクトリへの UNC パスを入力します。  Web Intelligence ドキュメントをスケジューリングして、変数 (インスタンスのタイトル、オーナー、日時、ユーザ名など) に基づいてフォルダを作成する場合は、プレースホルダを使用します。プレースホルダは、このボックスのテキストの後に挿入されます。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[所有者]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、[日付]、および [ファイル拡張子] です。 インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</li> </ul>

## 7.5 パブリケーションのスケジュールオプション

一部のスケジュールオプションは、管理者によって事前設定されています。デフォルト値を使用したり、値を変更することができます。

オプション	説明
インスタンスタイトル	インスタンスの名前を入力します。デフォルトでは、オブジェクトタイトルが表示されます。

## 繰り返し

定期的なスケジュールパターンを選択して、オブジェクトを繰り返し実行するスケジュールを設定します。

- オブジェクトを1時間おきに実行する場合は、**時間単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎日または定期的な日付間隔で実行する場合は、**日単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎週 (週に1回または複数回) 実行する場合は、**週単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月または数カ月に1回実行する場合は、**月単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定日に実行する場合は、**N 日**を選択して、実行する日にち、および実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月第1月曜日に実行する場合は、**第1月曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月最終日に実行する場合は、**月末日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定週の指定日に実行する場合は、**第N週のX曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- Business Intelligence (BI) プラットフォームカレンダーで指定された特定の日付でオブジェクトを実行する場合は、**カレンダー**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。カレンダーは、カスタマイズされたスケジュール日付のリストで、BI プラットフォーム管理者が作成します。

[可能な再試行回数] ボックスに、ジョブが失敗した場合に、サーバがジョブの実行を試行する回数を指定します。

再試行間隔 (秒単位) ボックスで、サーバがジョブの再試行前に待機する秒数を設定します。

## Enterprise 受信者

パブリケーションを配信する BI プラットフォームのユーザを選択します。

オプション	説明
動的受信者	<p>動的受信者ソース (BI プラットフォーム外のパブリケーション受信者に関する情報を提供するドキュメントまたはカスタムデータプロバイダ) を選択します。</p> <p>動的受信者は、プラットフォームのユーザアカウントを持っていませんが、外部データソースのユーザ情報を持つパブリケーション受信者です。動的受信者にパブリケーションを配信する方法です。</p>
イベント	<p>実行するパブリケーションをトリガするイベントを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジョブに対してファイルベースのカスタムイベントを指定するには、&lt; ボタンをクリックして、イベントを<a href="#">利用可能なイベント</a>リストから<a href="#">待機するイベント</a>リストに移動します。 イベントが実行するジョブをトリガします。</li> <li>ジョブにスケジュールイベントを指定するには、&gt; ボタンをクリックしてイベントを <a href="#">[利用可能なスケジュールイベント]</a> リストから <a href="#">[完了時に発生させるイベント]</a> リストに移動します。</li> </ul>
サーバグループのスケジュール	<p>パブリケーションを実行するサーバを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(デフォルト) スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでパブリケーションを実行する場合は <a href="#">[最初に見つかった利用可能なサーバを使用する]</a> を選択します。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでパブリケーションの実行を試みる場合は <a href="#">[選択したグループに所属するサーバを優先して使用する]</a> を選択してから、リストでサーバグループを選択します。サーバグループに使用できるサーバがない場合、パブリケーションは次に利用可能なサーバで実行されます。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでのみパブリケーションを実行する場合は <a href="#">[選択したグループに所属するサーバだけを使用する]</a> を選択してから、リストでサーバグループを選択します。指定したサーバグループのサーバが使用できない場合、パブリケーションは処理されません。</li> </ul>
プロンプト	<p><a href="#">[値の編集]</a> をクリックして、プロンプト値を編集します。</p> <p>プロンプトでは、情報の入力が必要です。 レポートオブジェクトでは、入力した情報によってレポートに表示されるデータが決まります。</p>
形式	<p>インスタンスを保存する形式を選択します。</p>

オプション	説明
出力先	<p>インスタンスを配信する場所 (出力先) を選択します。</p> <p>出力先には、インスタンスが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。複数の出力先を指定できます。</p>

## 7.5.1 Crystal レポートのスケジュールオプション

一部のスケジュールオプションは、管理者によって事前設定されています。デフォルト値を使用するか、別の値を選択することができます。

オプション	説明
インスタンスタイトル	<p>インスタンスの名前を入力します。デフォルトでは、オブジェクトタイトルが表示されます。</p>

## 繰り返し

定期的なスケジュールパターンを選択して、オブジェクトを繰り返し実行するスケジュールを設定します。

- オブジェクトを1時間おきに実行する場合は、**時間単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎日または定期的な日付間隔で実行する場合は、**日単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎週 (週に1回または複数回) 実行する場合は、**週単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月または数カ月に1回実行する場合は、**月単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定日に実行する場合は、**N 日**を選択して、実行する日にち、および実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月第1月曜日に実行する場合は、**第1月曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月最終日に実行する場合は、**月末日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定週の指定日に実行する場合は、**第N週のX曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- Business Intelligence (BI) プラットフォームカレンダーで指定された特定の日付でオブジェクトを実行する場合は、**カレンダー**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。カレンダーは、カスタマイズされたスケジュール日付のリストで、BI プラットフォーム管理者が作成します。

[**可能な再試行回数**] ボックスに、ジョブが失敗した場合に、サーバがジョブの実行を試行する回数を指定します。

**再試行間隔 (秒単位)** ボックスで、サーバがジョブの再試行前に待機する秒数を設定します。

## データベースログオン

オブジェクトのデータソースに必要なログオン情報を入力します。オブジェクトのデータソースに合う適切なアクセス権を持っている必要があります。

## プロンプト

[**値の編集**] をクリックして、パラメータ値を編集します。

パラメータでは、情報の入力が必要です。入力した情報によってレポートに表示されるデータが決まります。

オプション	説明
フィルタ	<p>レコードまたはグループ選択式を変更します。</p> <p>選択式を使用すれば、どのデータをレポートに表示するかを決定できます。また、不要なレコードを取り除いて、パフォーマンスを向上させることができます。</p>

## 形式

出力形式リストからインスタンスを保存する形式を選択します。

- インスタンスを Crystal レポート形式で保存するには、[Crystal Reports](#) を選択します。
- インスタンスを Excel 形式で保存し、元のレポート書式設定を維持するには、[Microsoft Excel \(97-2003\)](#) を選択します。
- 書式設定を維持する必要がなく、インスタンスのセルをマージしない場合、インスタンスを Excel 形式で保存するには、[Microsoft Excel \(97-2003\) \(データのみ\)](#) を選択します。
- インスタンスを Word 形式で保存し、できるだけ多くの書式設定 (グラフィックを含む) を維持するには [Microsoft Word \(97-2003\)](#) を選択します (各オブジェクトは個々のテキストフィールドに表示されます)。
- インスタンスを PDF で保存するには、[PDF](#) を選択します。
- インスタンスを RTF で保存し、できるだけ多くの書式設定 (グラフィックを含む) を維持するには [リッチテキスト形式 \(RTF\)](#) を選択します (各オブジェクトは個々のテキスト項目に表示されます)。
- [Microsoft Word \(97-2003\)](#) を使用してできるだけ多くの書式設定を維持する必要がない場合、インスタンスを Word 形式で保存するには、[Microsoft Word \(97-2003\) - 編集可能 \(RTF\)](#) を選択します。
- インスタンスをテキストとして保存するには、[テキスト](#) を選択します。
- インスタンスをページ区切り付きテキストとして保存するには、[ページ区切り付きテキスト](#) を選択します。
- インスタンスを TTX 形式で保存し、値と値の間にタブを挿入して、元のレポートの書式設定を維持するには、[タブ区切りテキスト \(TTX\)](#) を選択します。
- 書式設定を維持する必要がない場合、インスタンスを CSV 形式で保存し、値と値の間にカンマを挿入するには、[区切り値 \(CSV\)](#) を選択します。
- インスタンスを XML 形式で保存するには、[XML](#) を選択します。

[Crystal Reports](#) 以外のファイル形式を選択すると、インスタンスにはエクスポート形式で許可されている可能な限り多くの書式設定が維持されます。一部またはすべての書式設定が失われることがあります。



オプション	説明
出力先	<p>インスタンスを配信する場所を選択します。</p> <p>出力先には、インスタンスが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。複数の出力先を指定できます。</p>
印刷設定	<p>通常使用するプリンタの印刷オプションを選択します。</p> <p>BI プラットフォームでは、配信前にインスタンスが印刷されます。</p>
イベント	<p>イベントの発生後に実行するジョブ、またはイベントによってトリガするジョブを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジョブに対してファイルベースのカスタムイベントを指定するには、&lt; ボタンをクリックして、イベントを <b>利用可能なイベント</b> リストから <b>待機するイベント</b> リストに移動します。イベントが実行するジョブをトリガします。</li> <li>ジョブにスケジュールイベントを指定するには、&gt; ボタンをクリックしてイベントを <b>利用可能なスケジュールイベント</b> リストから <b>完了時に発生させるイベント</b> リストに移動します。</li> </ul>
サーバグループのスケジュール	<p>Crystal レポートを実行するサーバを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(デフォルト) スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでオブジェクトを実行する場合は <b>最初に見つかった利用可能なサーバを使用する</b> を選択します。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでオブジェクトの実行を試みる場合は <b>選択したグループに所属するサーバを優先して使用する</b> を選択してから、リストでサーバグループを選択します。サーバグループに使用できるサーバがない場合、オブジェクトは次に利用可能なサーバで実行されます。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでのみオブジェクトを実行する場合は <b>選択したグループに所属するサーバだけを使用する</b> を選択してから、リストでサーバグループを選択します。指定したサーバグループのサーバが使用できない場合、オブジェクトは処理されません。</li> </ul>

オプション	説明
言語	<p>ロケールに基づいて、インスタンスの言語を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートをスケジュールして、基本設定で設定した優先表示ロケールのみを使用してインスタンスを作成するには、<a href="#">[優先表示ロケールでレポートをスケジュール]</a>を選択します。</li> <li>複数の言語でレポートをスケジュールする場合は、<a href="#">[複数のロケールでレポートをスケジュール]</a>を選択し、<a href="#">[すべてのロケール]</a>リストで1つ以上のロケールを選択して、<a href="#">[&gt;]</a>をクリックしてロケールを<a href="#">[選択インスタンスのロケール]</a>リストに移動します。</li> </ul>

## 7.5.2 Web Intelligence ドキュメントのスケジュールオプション

一部のスケジュールオプションは、管理者によって事前設定されています。デフォルト値を使用するか、別の値を選択することができます。

オプション	説明
インスタンスタイトル	<p>インスタンスの名前を入力します。デフォルトでは、オブジェクトタイトルが表示されます。</p>

## 繰り返し

定期的なスケジュールパターンを選択して、オブジェクトを繰り返し実行するスケジュールを設定します。

- オブジェクトを1時間おきに実行する場合は、**時間単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎日または定期的な日付間隔で実行する場合は、**日単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎週 (週に1回または複数回) 実行する場合は、**週単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月または数カ月に1回実行する場合は、**月単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定日に実行する場合は、**N 日**を選択して、実行する日にち、および実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月第1月曜日に実行する場合は、**第1月曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月最終日に実行する場合は、**月末日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定週の指定日に実行する場合は、**第N週のX曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- Business Intelligence (BI) プラットフォームカレンダーで指定された特定の日付でオブジェクトを実行する場合は、**カレンダー**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。カレンダーは、カスタマイズされたスケジュール日付のリストで、BI プラットフォーム管理者が作成します。

[可能な再試行回数] ボックスに、ジョブが失敗した場合に、サーバがジョブの実行を試行する回数を指定します。

再試行間隔 (秒単位) ボックスで、サーバがジョブの再試行前に待機する秒数を設定します。

## 形式

出力形式で、インスタンスを保存する形式を選択します。

- *Web Intelligence*
- *Microsoft Excel*
- *PDF*
- *mHTML*

オプション	説明
キャッシュ	<p>キャッシュで利用可能な形式リストから、ドキュメントをキャッシュする形式を選択します。</p> <p>必要の場合は、キャッシュを事前ロードするロケールを選択します。キャッシュ形式を選択しないと、BI プラットフォームではドキュメントがキャッシュされません。</p>
イベント	<p>実行するパブリケーションをトリガするイベントを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジョブに対してファイルベースのカスタムイベントを指定するには、&lt; ボタンをクリックして、イベントを利用可能なイベントリストから待機するイベントリストに移動します。イベントが実行するジョブをトリガします。</li> <li>ジョブにスケジュールイベントを指定するには、&gt; ボタンをクリックしてイベントを [利用可能なスケジュールイベント] リストから [完了時に発生させるイベント] リストに移動します。</li> </ul>
サーバグループのスケジュール	<p>パブリケーションを実行するサーバを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(デフォルト) スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでパブリケーションを実行する場合は、最初に見つかった利用可能なサーバを使用するを選択します。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでパブリケーションの実行を試みる場合は、選択したグループに所属するサーバを優先して使用するを選択し、リストからサーバグループを選択します。サーバグループに使用できるサーバがない場合、パブリケーションは次に利用可能なサーバで実行されます。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでのみパブリケーションを実行する場合は、選択したグループに所属するサーバだけを使用するを選択し、リストからサーバグループを選択します。指定したサーバグループのサーバが使用できない場合、パブリケーションは処理されません。</li> </ul>
出力先	<p>インスタンスを配信する場所 (出力先) を選択します。</p> <p>出力先には、インスタンスが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。複数の出力先を指定できます。</p>
プロンプト	<p>[編集] をクリックして、プロンプト値を編集します。</p> <p>プロンプトでは、情報の入力が必要です。レポートオブジェクトでは、入力した情報によってレポートに表示されるデータが決まります。</p>

## 7.5.3 プログラムのスケジュールオプション

一部のスケジュールオプションは、管理者によって事前設定されています。デフォルト値を使用するか、別の値を選択することができます。

オプション	説明
インスタンスタイトル	インスタンスの名前を入力します。デフォルトでは、オブジェクトタイトルが表示されます。
繰り返し	<p>定期的なスケジュールパターンを選択して、オブジェクトを繰り返し実行するスケジュールを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>オブジェクトを1時間おきに実行する場合は、<b>時間単位</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを毎日または定期的な日付間隔で実行する場合は、<b>日単位</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを毎週 (週に1回または複数回) 実行する場合は、<b>週単位</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを毎月または数カ月に1回実行する場合は、<b>月単位</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを月の指定日に実行する場合は、<b>N 日</b>を選択して、実行する日にち、および実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを毎月第1月曜日に実行する場合は、<b>第1月曜日</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを毎月最終日に実行する場合は、<b>月末日</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>オブジェクトを月の指定週の指定日に実行する場合は、<b>第N週のX曜日</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。</li><li>Business Intelligence (BI) プラットフォームカレンダーで指定された特定の日付でオブジェクトを実行する場合は、<b>カレンダー</b>を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。カレンダーは、カスタマイズされたスケジュール日付のリストで、BI プラットフォーム管理者が作成します。</li></ul> <p>[可能な再試行回数] ボックスに、ジョブが失敗した場合に、サーバがジョブの実行を試行する回数を指定します。</p> <p>再試行間隔 (秒単位) ボックスで、サーバがジョブの再試行前に待機する秒数を設定します。</p>

オプション	説明
出力先	<p>インスタンスを配信する場所 (出力先) を選択します。</p> <p>出力先には、インスタンスが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。複数の出力先を指定できます。</p>
イベント	<p>実行するパブリケーションをトリガするイベントを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジョブに対してファイルベースのカスタムイベントを指定するには、&lt; ボタンをクリックして、イベントを <b>利用可能なイベント</b> リストから <b>待機するイベント</b> リストに移動します。イベントが実行するジョブをトリガします。</li> <li>ジョブにスケジュールイベントを指定するには、&gt; ボタンをクリックしてイベントを <b>利用可能なスケジュールイベント</b> リストから <b>完了時に発生させるイベント</b> リストに移動します。</li> </ul>
サーバグループのスケジュール	<p>パブリケーションを実行するサーバを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(デフォルト) スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでパブリケーションを実行する場合は、<b>最初に見つかった利用可能なサーバを使用する</b>を選択します。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでパブリケーションの実行を試みる場合は、<b>選択したグループに所属するサーバを優先して使用する</b>を選択し、リストからサーバグループを選択します。サーバグループに使用できるサーバがない場合、パブリケーションは次に利用可能なサーバで実行されます。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでのみパブリケーションを実行する場合は、<b>選択したグループに所属するサーバだけを使用する</b>を選択し、リストからサーバグループを選択します。指定したサーバグループのサーバが使用できない場合、パブリケーションは処理されません。</li> </ul>

## 7.5.4 オブジェクトパッケージのスケジュールオプション

オブジェクトパッケージは、他のオブジェクトのコンテナ (コンポーネント) として機能するオブジェクトです。

オブジェクトパッケージには、スケジュール可能なすべてのオブジェクトタイプを設定できます。オブジェクトパッケージは、Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で作成して編集します。

オブジェクトパッケージレベルでは、以下のスケジュールオプションを設定することができます。

- 繰り返し
- 出力先
- イベント
- サーバーグループの設定

オブジェクトパッケージのコンポーネントごとに、以下のスケジュールオプションを設定することができます。

- 通知
- データベースログオン設定
- フィルタ (適用可能な場合)
- 形式
- 印刷設定
- パラメータまたはプロンプト
- 引数 (適用可能な場合)

一部のスケジュールオプションは、管理者によって事前設定されています。デフォルト値を使用するか、別の値を選択することができます。

オプション	説明
インスタンスタイトル	インスタンスの名前を入力します。デフォルトでは、オブジェクトタイトルが表示されます。

## 繰り返し

定期的なスケジュールパターンを選択して、オブジェクトを繰り返し実行するスケジュールを設定します。

- オブジェクトを1時間おきに実行する場合は、**時間単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎日または定期的な日付間隔で実行する場合は、**日単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎週 (週に1回または複数回) 実行する場合は、**週単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月または数カ月に1回実行する場合は、**月単位**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定日に実行する場合は、**N 日**を選択して、実行する日にち、および実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月第1月曜日に実行する場合は、**第1月曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを毎月最終日に実行する場合は、**月末日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- オブジェクトを月の指定週の指定日に実行する場合は、**第N週のX曜日**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。
- Business Intelligence (BI) プラットフォームカレンダーで指定された特定の日付でオブジェクトを実行する場合は、**カレンダー**を選択して、実行の開始日時と終了日時を入力します。カレンダーは、カスタマイズされたスケジュール日付のリストで、BI プラットフォーム管理者が作成します。

[可能な再試行回数] ボックスに、ジョブが失敗した場合に、サーバがジョブの実行を試行する回数を指定します。

再試行間隔 (秒単位) ボックスで、サーバがジョブの再試行前に待機する秒数を設定します。



オプション	説明
イベント	<p>実行するパブリケーションをトリガするイベントを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジョブに対してファイルベースのカスタムイベントを指定するには、&lt; ボタンをクリックして、イベントを <b>利用可能なイベント</b> リストから <b>待機するイベント</b> リストに移動します。 イベントが実行するジョブをトリガします。</li> <li>ジョブにスケジュールイベントを指定するには、&gt; ボタンをクリックしてイベントを <b>利用可能なスケジュールイベント</b> リストから <b>完了時に発生させるイベント</b> リストに移動します。</li> </ul>
サーバグループのスケジュール	<p>パブリケーションを実行するサーバを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(デフォルト) スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでパブリケーションを実行する場合は、<b>最初に見つかった利用可能なサーバを使用する</b>を選択します。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでパブリケーションの実行を試みる場合は、<b>選択したグループに所属するサーバを優先して使用する</b>を選択し、リストでサーバグループを選択します。 サーバグループに使用できるサーバがない場合、パブリケーションは次に利用可能なサーバで実行されます。</li> <li>選択したサーバグループのサーバでのみパブリケーションを実行する場合は、<b>選択したグループに所属するサーバだけを使用する</b>を選択し、リストからサーバグループを選択します。 指定したサーバグループのサーバが使用できない場合、パブリケーションは処理されません。</li> </ul>
出力先	<p>インスタンスを配信する場所 (出力先) を選択します。</p> <p>出力先には、インスタンスが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。 複数の出力先を指定できます。</p>
コンポーネント	<p>各コンポーネント名の横にあるチェックボックスを選択して、オブジェクトパッケージに追加します。</p> <p>コンポーネントごとに、通知、データベースログオン、フィルタ、書式設定、印刷、キャッシング、およびパラメータまたはプロンプトを設定することができます。</p>

## 8 インスタンスの使用

### 8.1 インスタンスの一時停止と再開

スケジュールされたインスタンスを一時停止および再開することができます。つまり、一時停止および再開操作は、[待機] か [定期] のステータスがあるインスタンスでのみ実行できます。

たとえば、Business Intelligence (BI) プラットフォーム Job Server が保守目的で停止されている場合は、スケジュールされたインスタンスを一時停止してシステムがオブジェクトを実行しないようにすることができます。インスタンスを一時停止すると、Job Server が稼働していないときにスケジュールされたジョブが失敗するのを防ぐことができます。Job Server が再始動したら、このスケジュールされたインスタンスを再開することができます。

### 8.2 インスタンスの再スケジュール

ステータスが成功、定期、または失敗のインスタンスを再スケジュールできます。インスタンスを再スケジュールすると、新しいインスタンスが作成されます。

インスタンスを再スケジュールするには、インスタンスのステータスが成功、定期または失敗である必要があります。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、再スケジュールするオブジェクトを含むフォルダを検索して選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[アクション] をクリックして、リストで [履歴] を選択します。  
[ユーザアクション] ページの [履歴] 領域に、オブジェクトのすべての利用可能なインスタンスが表示されます。利用可能なインスタンスがない場合は、「表示する項目がありません」というメッセージが表示されます。
3. 利用可能なインスタンスのリストで、再スケジュールするインスタンスを選択します。
4. ユーザアクションページでツールバーのアクションをクリックし、一覧から再スケジュールを選択します。  
[再スケジュール] ページが表示されます。
5. 必要に応じて他のスケジュールオプションを指定して、[スケジュール] をクリックします。  
[ユーザアクション] ページの [履歴] 領域に新しいインスタンスに関する情報が表示されます。

### 8.3 インスタンスの置換


ステータスが定期または待機のインスタンスを置換することができます。既存のインスタンスに定義されたスケジュールパラメータを使用して新しいインスタンスを作成し、インスタンスを置換できます。

インスタンスを置換するには、インスタンスのステータスが [定期] または [待機] である必要があります。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、置換するインスタンスを含むフォルダを検索して選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[アクション] をクリックして、リストで [履歴] を選択します。  
[ユーザアクション] ページの [履歴] 領域に、オブジェクトのすべての利用可能なインスタンスが表示されます。利用可能なインスタンスがない場合は、「表示する項目がありません」というメッセージが表示されます。
3. 置換するインスタンスを選択します。
4. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[アクション] をクリックして、リストで [再スケジュール] を選択します。  
[再スケジュール] ページが表示されます。
5. 再スケジュールオプションのリストで、[置換] を選択します。
6. [既存のスケジュールを置換します。] または [既存のスケジュールから新しいスケジュールを作成します。] を選択します。
7. スケジュールをクリックします。  
[ユーザアクション] ページの [履歴] 領域に新しいインスタンスが表示されます。

## 8.4 オブジェクトの最新のインスタンスの表示

オブジェクトの最新の正常なインスタンスを表示できます。

1. IOMS-コンテンツエクスプローラで、最新のインスタンスを表示するオブジェクトが含まれるフォルダを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[アクション] をクリックして、リストで [最新のインスタンスを表示] を選択します。  
最新の正常なインスタンスが、デフォルトのビューア Web パーツに表示されます。たとえば、Crystal レポートインスタンスを選択すると、インスタンスは [IOMS - ドキュメントビューア] Web パーツに表示されます。
3. ツールバーの [最新表示] () をクリックして、オブジェクトのデータソースの最新データでレポートを最新表示します。

## 8.5 インスタンスの削除

任意のオブジェクトのインスタンスを削除できます。

1. IOMS-コンテンツエクスプローラで、インスタンスを削除するオブジェクトを含むフォルダを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[アクション] をクリックして、リストで [履歴] を選択します。  
[ユーザアクション] ページの [履歴] 領域に、オブジェクトのすべての正常なインスタンスが表示されます。
3. 削除するインスタンスを選択します。
4. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[削除] をクリックします。

## 8.6 インスタンスの履歴の表示

Business Intelligence (BI) プラットフォームには、オブジェクトの正常なインスタンスの履歴が保存されています。

インスタンス履歴は時系列で表示され、次のような情報が含まれます。

- インスタンスの日時
- タイトル
- 実行者
- パラメータ
- 形式
- ステータス

インスタンスを実行時間順に並べるには、[[インスタンスの日時](#)] 列見出しをクリックします。この列見出しを再度クリックして、逆順に並べ替えます。インスタンスを所有者またはステータス順に並べるには、その列見出しをクリックします。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、インスタンス履歴を表示するオブジェクトを含むフォルダを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[[アクション](#)] をクリックして、リストで [[履歴](#)] を選択します。  
[[ユーザアクション](#)] ページの [[履歴](#)] 領域に、オブジェクトのすべての正常なインスタンスが表示されます。すべての利用可能なインスタンス、またはスケジュールしたインスタンスのみが表示されます。
3. [[インスタンスの日時](#)] 列で、インスタンスを表示するリンクをダブルクリックします。  
インスタンスがデフォルトのドキュメントビューア Web パーツで開きます。

### ① 注記

表示される情報は、オブジェクトタイプによって異なります。

たとえば、Crystal レポートインスタンスを選択すると、インスタンスは [IOMS - ドキュメントビューア] Web パーツに開かれます。オブジェクトパッケージの [[履歴](#)] 領域に含まれる列は少数ですが、パブリケーションの [[履歴](#)] 領域には [[Enterprise 受信者](#)] や [[動的受信者](#)] などの追加の列が含まれます。

## 8.7 オブジェクト、インスタンス、またはショートカットの送信

1. IOMS-コンテンツエクスプローラ Web パーツで、送信するオブジェクト、インスタンス、またはショートカットを含むフォルダを見つけて選択します。
2. IOMS-コンテンツエクスプローラのツールバーで、[[アクション](#)] をクリックして、リストで [[送信](#)] を選択します。
3. オブジェクトの送信先を選択します。
  - [BusinessObjects の受信ボックス](#)
  - [電子メール](#)
  - [FTP の場所](#)

- ファイルの場所

[ユーザアクション] ページが表示されます。

4. 送信するオブジェクト、インスタンス、またはショートカットを選択します。

## 8.8 オブジェクトへのリンクの取得

他のユーザとオブジェクトを共有する前に、オブジェクトへのリンクを取得してから、ユーザにそのリンクを送信する必要があります。

リンクを受信したユーザはオブジェクトを表示できます。そのユーザのシステムに Integration option for SharePoint または Business Intelligence (BI) プラットフォームがインストールされているかどうかは関係ありません。このリンクは、Integration option for SharePoint がオブジェクトに対して提供する OpenDocument URL です。リンクをクリックすると BI プラットフォームのログオンページが表示され、認証に成功すると、オブジェクトを表示できます。

1. IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツで、リンクを送信するオブジェクトを含むフォルダを見つけて選択します。
2. オブジェクトを右クリックして、[ドキュメントリンク] を選択します。  
ダイアログボックスのテキストボックスに、そのオブジェクトへの URL が表示されます。
3. [リンクのコピー] ボタンをクリックします。

Mozilla Firefox ブラウザまたは Google Chrome ブラウザを使用している場合は、[リンクのコピー] ボタンは使用できません。代わりに、テキストボックスのドキュメント URL を選択して、Ctrl + C キーを押してリンクをコピーします。

ドキュメントの URL がクリップボードにコピーされます。

4. Ctrl + V キーを押して、URL をテキストファイルに貼り付け、そのリンクをクリックして適切なオブジェクトが表示されることを確認します。
5. Ctrl + V キーを押して、電子メールや別の場所に URL を貼り付けます。

## 8.9 レポートの貼り付け

貼り付けることで、Integration option for SharePoint software の Web パーツ (ビューア) にレポートが関連付けられます。

ビューアのプロパティまたはビューアのツールバーを使用してレポートを貼り付けることができます。




レポートを Web パーツに貼り付けると、Web パーツはオブジェクトのプライマリビューアになります。SharePoint にログオンして、Business Intelligence (BI) プラットフォームで Central Management Server (CMS) に接続するたび、レポートがその Web パーツで自動的に開かれます。このことは、定期的に表示する必要がある非常に重要な BI レポートにとって有用です。

Web Intelligence ドキュメント、Crystal レポート、サードパーティドキュメント (Microsoft Word、Microsoft Excel、PDF など) などのオブジェクトタイプごとに管理者が設定するプライマリコンテンツ Web パーツは、IOMS - ドキュメントビューアです。

## 8.9.1 ビューアのプロパティを使用したレポートの貼り付け

1. マウスポインタをビューアのツールバーの上に移動し、表示されるリストをクリックして、[[Web パーツの編集](#)]を選択します。  
Web パーツの[プロパティ](#)領域にビューアのプロパティが表示されます。
2. [SAP BusinessObjects](#) プロパティで特定のレポートを貼り付ける場合は、[優先レコード CUID](#) ボックスにレポート CUID を入力します。  
CUID は、[[ユーザアクション](#)] ページのレポートプロパティに一覧表示されています。レポートプロパティにアクセスするには、オブジェクトを右クリックして、[[プロパティ](#)]を選択します。
3. 最後に表示したレポートを貼り付けるには、[最後に表示したレポートの貼り付け](#)チェックボックスを選択します。
4. [OK](#) をクリックします。

## 8.9.2 ビューアのツールバーを使用したレポートの貼り付け



1. SAP BusinessObjects サイトの任意のページの右上隅で、 [<System/SiteName>](#)  [このページの個人用設定](#)  を選択します。  
ページがパーソナルモードで再表示されます。
2. 貼り付けるレポートを開きます。  
レポートがそのプライマリビューアに表示されます。
3. プライマリビューアのツールバーをクリックして、[[このレポートの貼り付け](#)]を選択します。

レポートが貼り付けられ、この SAP BusinessObjects サイトにログオンするたびに表示されるようになります。

# 重要免責事項および法的情報

## ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
  - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
  - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

## 外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

## ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

## コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

## 偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。